

大和名所圖會

十市郡  
芳典郡

六乾

ル 4  
6321  
6



124  
6321  
6

大和名所圖會卷之六

十市郡目錄

多武峰

妙樂寺

聖靈院

定慧墳

增賀墳

飯盛塚

加佐々後山

紅葉洞

淡海山墓

兩柳宮

若櫻社

等彌社

安陪社

用明天皇陵

東光寺

上官

栗原山

薄里櫻

下居社

倉橋山

棕橋川

崇峻天皇陵

下居里

老狐山

響石

喜ね寺

荻田寺

山田寺

日女命社

七井

阿部文殊堂

雙柳宮

般余池

玉穗宮

土舞臺

安陪島

甕栗宮

稚櫻宮

市磯池

文殊院

二階堂

天香久山

香鼻山離宮

天磐戸



山口社  
龍華臺院  
五百井  
大名持社  
猪養山  
あ分社  
一藏王  
日本花  
藤尾坂  
二大門  
實城寺  
櫻本坊  
勝明神

高樺社  
烏宿山  
石塚  
妹背山  
櫻渡口  
一之坂  
長崎茶師  
七曲  
大橋  
金崎山寺  
吉水院  
依栳明神  
神振山

龍門山城趾  
大野溪  
龍互城趾  
吉野山  
本善寺  
四千掛社  
松山御茶屋  
花園山  
圓屋花  
威徳天神  
駄天山  
御影山  
如意編子

鶴井  
龍門池  
千股溪  
吉野川  
六田淀  
水分山  
千本櫻  
櫻田谷  
金鳥居  
芳那賦  
五基寺  
村上我隆碑  
後醍醐帝陵

湯母  
常澤社  
大福村  
耳梨池  
葛本社  
竹田社  
十市社  
千代社  
皇子社

吉野郡目録

榊真社  
都多本社  
耳成山  
耳成社  
耳成池  
坂門社  
笠縫里  
子部社  
姫皇子社

喰安池  
膳夫村  
施子山  
耳無行宮  
常盤里  
御厨池  
十市里  
尾就社  
小杜社

土安社  
吉備公別業  
耳無川  
耳無井  
猛田原  
砧塚  
三光寺  
多社  
百濟宮

小川瀧  
高角社  
龍門山  
洛陽清水寺舊趾  
龍門瀑  
龍門溪

龍門山城趾  
龍互城趾  
龍門溪

高見山  
海部家  
佛所院

竹林院  
榎坂  
世尊  
牛頭天王  
遙谷  
蹴ぬけ塔  
大龍  
龍泉寺  
琵琶山  
笙岩室  
巴  
菊窟

椿山寺  
模觀寺  
辰の尾  
高等堂  
岩倉谷  
安禪寺  
精吟小孫  
鎧嶽  
弓絃葉井  
井光宅  
旭窟  
宮川  
正善窟

布引櫻  
中院谷  
人磨塚  
高城山  
金精社  
青根我峯  
白倉山  
吉野皇居  
釋迦窟  
鷹窟  
金剛寺  
聖天窟

天皇橋  
花久倉  
子守社  
躑躅足  
金津嶽  
苔清  
無名川  
太刀石  
所影石  
國見山  
大基原  
鹽葉山  
不動窟

柏木社  
小牟漏岳  
假寝橋  
吉魚張  
川上鹿鹽社  
箕橋  
隴浦  
神明井  
今本寺  
嶋天神  
安騎孫  
願樂寺  
笠本川

國栖莊  
丹生祠  
櫻木社  
舟船山  
橋井社  
大沼野辺  
多藝海の内  
大沼堤  
薬水井  
宇治向山  
東孫  
立興寺  
鎧岩

耳我嶺  
象山  
箕箕川  
檉尾山  
宮隴  
隴御門  
遊副川  
法真良塚  
八幡社  
吉野分社  
秋孫川  
隴上寺  
高等墓

國栖山  
象小川  
花龍水  
日晚孫  
清河原  
玉水隴宮古  
夢回備  
新漢初墓  
比蘇寺  
丹治川  
餅蘇  
土田川  
名栖山

寒那川  
瀧川  
瀧尾社  
小清水  
寶藏寺  
高原山  
風谷山  
憩息石  
林泉寺  
龍川寺  
池原川  
柳本溪  
上嶽

二浦社  
蘆瀨川  
天神祠  
芋瀨溪  
平維盛墓  
備後山  
小井瀧  
沈峯山  
異像山  
芋瀨宅趾  
佐田川  
獨木梁  
上嶽王権現

山西社  
津納飛泉  
伯母子嶺  
温泉溪  
佐久間信盛墓  
出谷川  
小系山  
沈峯社  
水分社  
竹原八舟宅  
葛川溪  
上嶽下嶽

芙蓉山  
川分社  
大清水  
山崎社  
白屋嶽  
西川  
伎後川  
海津社  
寶泉寺  
尼妙圓宅  
安曾川  
神上嶽  
釋迦嶽

鳳閣寺  
後村上帝皇居  
丹生山  
白銀嶽  
鷹巢山  
白瀑布  
稻色嶽  
燈籠洞  
池津川社  
四所祠  
七面山  
高隴  
仍者嵩

黄金嵩  
春日社  
丹生社  
波寶社  
立川社  
朝舞嶽  
將軍塚  
乾山  
藥師堂  
玉置山  
十二嶽  
湯系温泉

倉隴  
鎮國寺  
丹生寺  
檜谷迫川  
禪龍寺  
惣門瀑布  
天川  
池津川  
小壺山  
王置川  
十津川  
中村祠  
無終山

常學寺  
後醍醐天皇居  
櫃岳  
波比賣社  
乘鞍山  
伊波多社  
龍泉寺  
白飯寺  
荒神岳  
三箇八舟墓  
玉垣内社  
小松山  
和田峯

善鬼里

巖

善鬼川

都藍尼

吉野紀の曰  
多武家少七  
よら侍

乃末

楸の

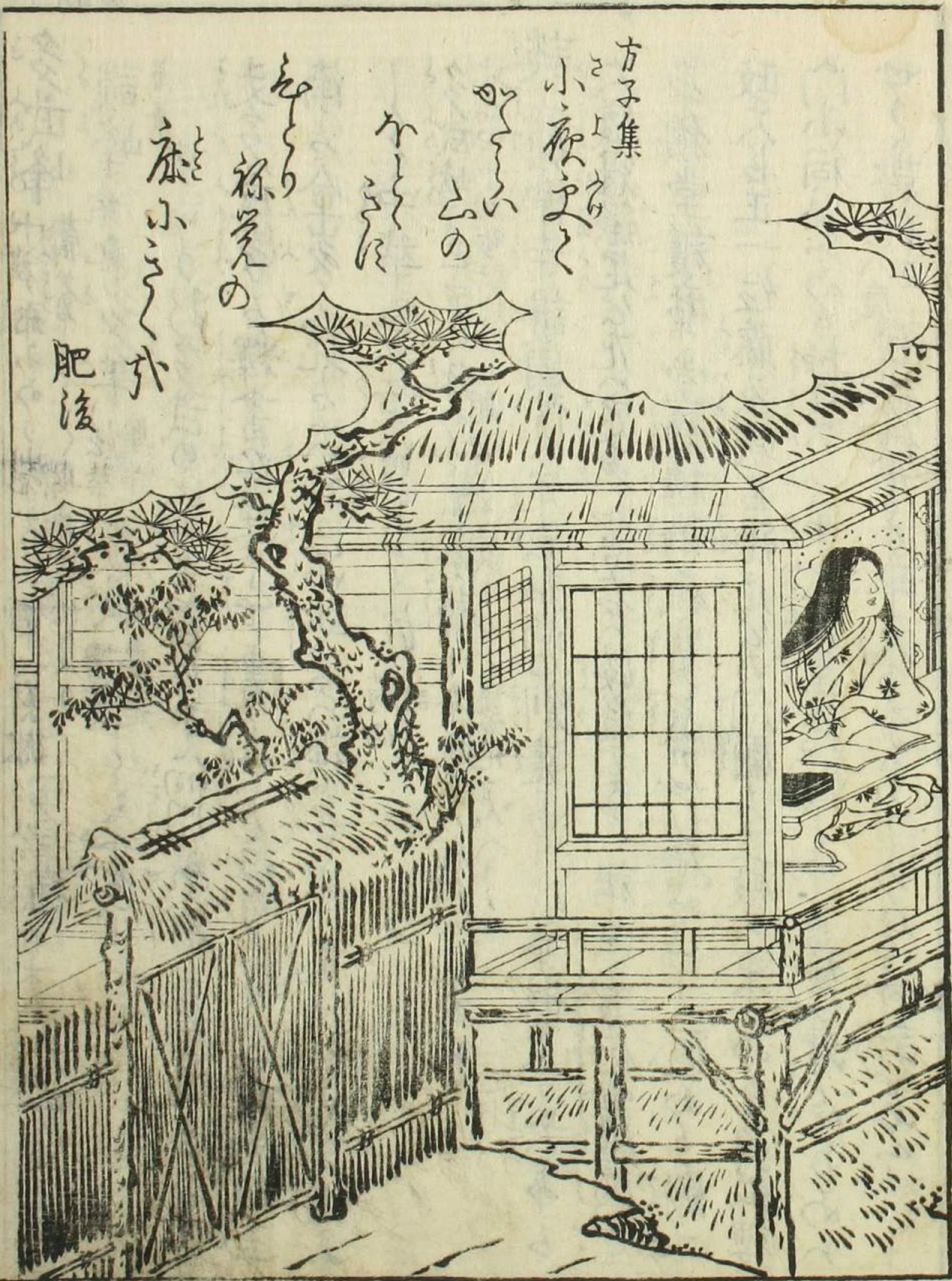
岑はく

吉井  
初瀬の

花の  
中宿

飛考井雅章





方子集

小夜文

の

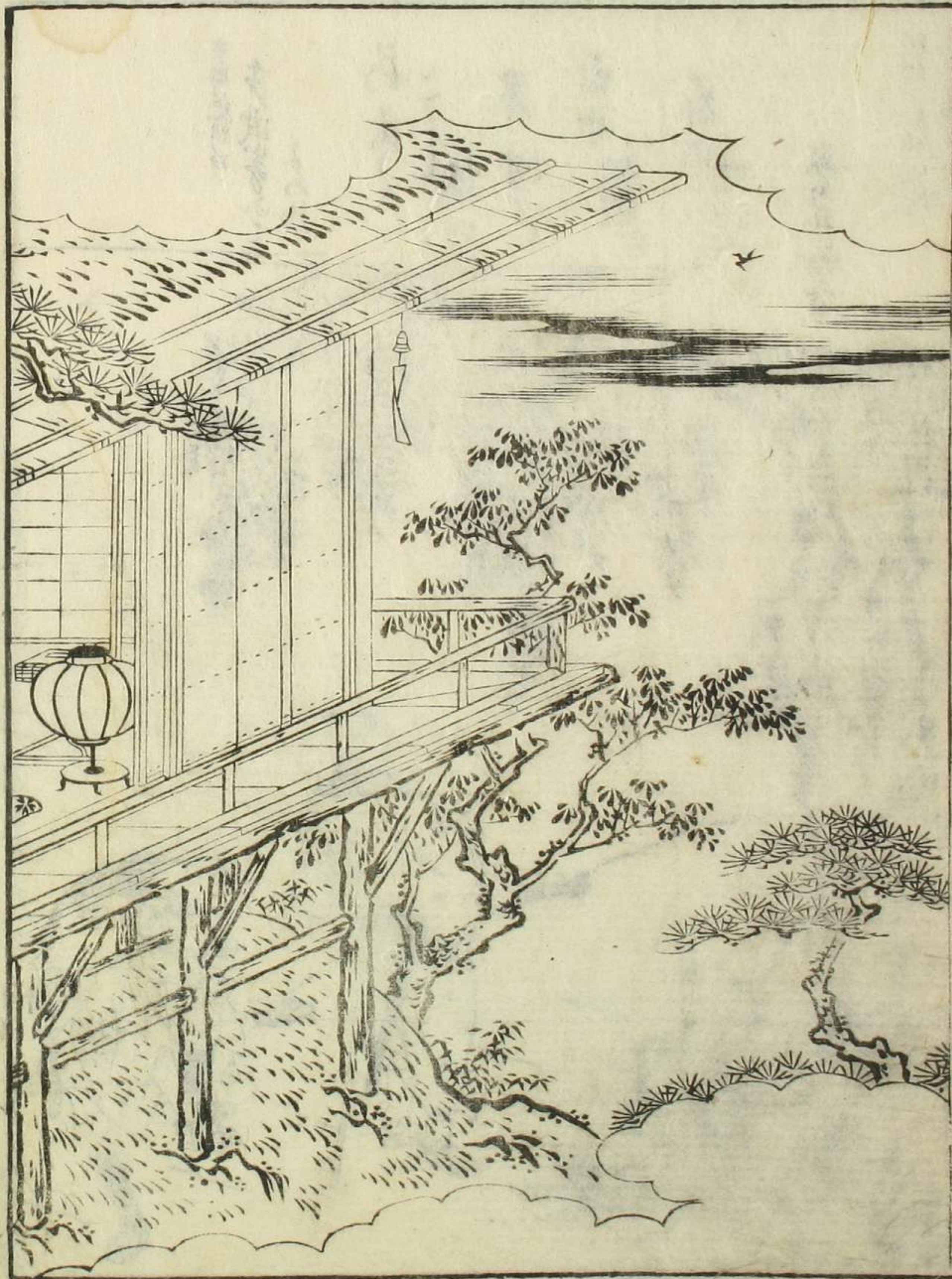
の

の

麻小

の

肥後



多武峰

北野郡小倉の嶽

麓蒼蒼として此處の池あり

田身嶺

日本紀大務 日本紀

談峰 縁起 多年

法華談武 僧實 夢記

うしろのお多武の山

旁志げたるも細川の波はたれたる 今八皇子

夫多武家々釋書に五臺とて書し東を伊勢のちるに金剛と南を金峯と北を大神と中央を談峯あり足神の靈岨

中華の五岳小異るなり 荷西

多武峰 北に十九町北に山の通路今に級ありと説記あり

談の妙樂寺護國院に定恵和尚の創建あり本殿の中央あり

大織冠鎌足公九一定恵和尚を淡海公あり講堂常行堂權頂堂

本願堂護摩堂鐘樓輪藏寶藏及び僧院四十二區あり贈大

政大臣正一位藤原朝臣鎌足公の祠廟を正殿の東ありあ殿樓

向小祠ありあり押談の中大兄皇子 天皇 中臣鎌子連と心あり

中々鞍化 鹿 誅伐して平天下あり 奇計 とり

皇子の將 城 の東倉橋の家に登り藤のたれ下ありて撥乱

反正の謀 談 の終るも皇子の歡ひありとあり我大臣小孫ら

汝が姓 あ わるるる そ の た ん を 宣 へ そ の 談 祈る と 談 峯 と を

號 の い は す は 時 談 武 家 も し の 初 と の 礼 記 龍 岳 と い ふ

け の 心 を ち ん 音 を 家 り ん に 龍 の 死 を 九 と ん の 人 扶 の

頭 腹 を ち ん 危 を ち ん ち ん の 死 を 九 と ん の 人 扶 の

十三層塔 の 定 恵 和 尚 の 所 創 し て け す の ち り 地 底 小 大 織

冠 の 遺 骨 を 納 め り 押 談 の 塔 に 定 恵 和 尚 自 維 正 年 に を 移 す ふ り り

智 學 の ち ん 清 涼 山 寶 池 院 の 十 二 層 の 塔 を 造 り 七 塔 前 の

船 に つ ま ひ く る 塔 材 多 し 一 層 を 移 す り 一 層 を 移 す り

白 鳳 七 年 九 月 日 本 小 倉 岸 わ り 河 津 不 比 考 に 對 面 あり 一 父

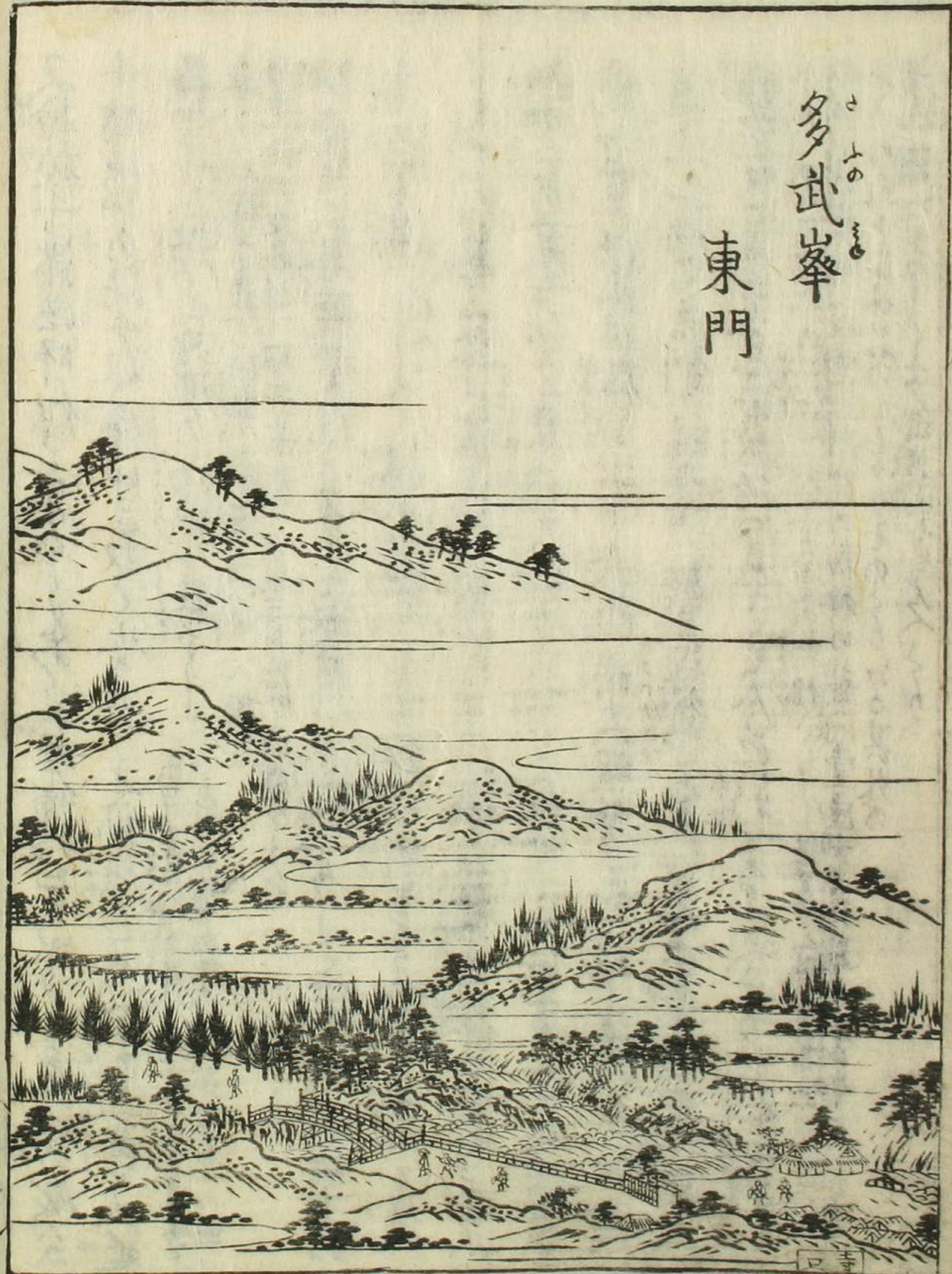
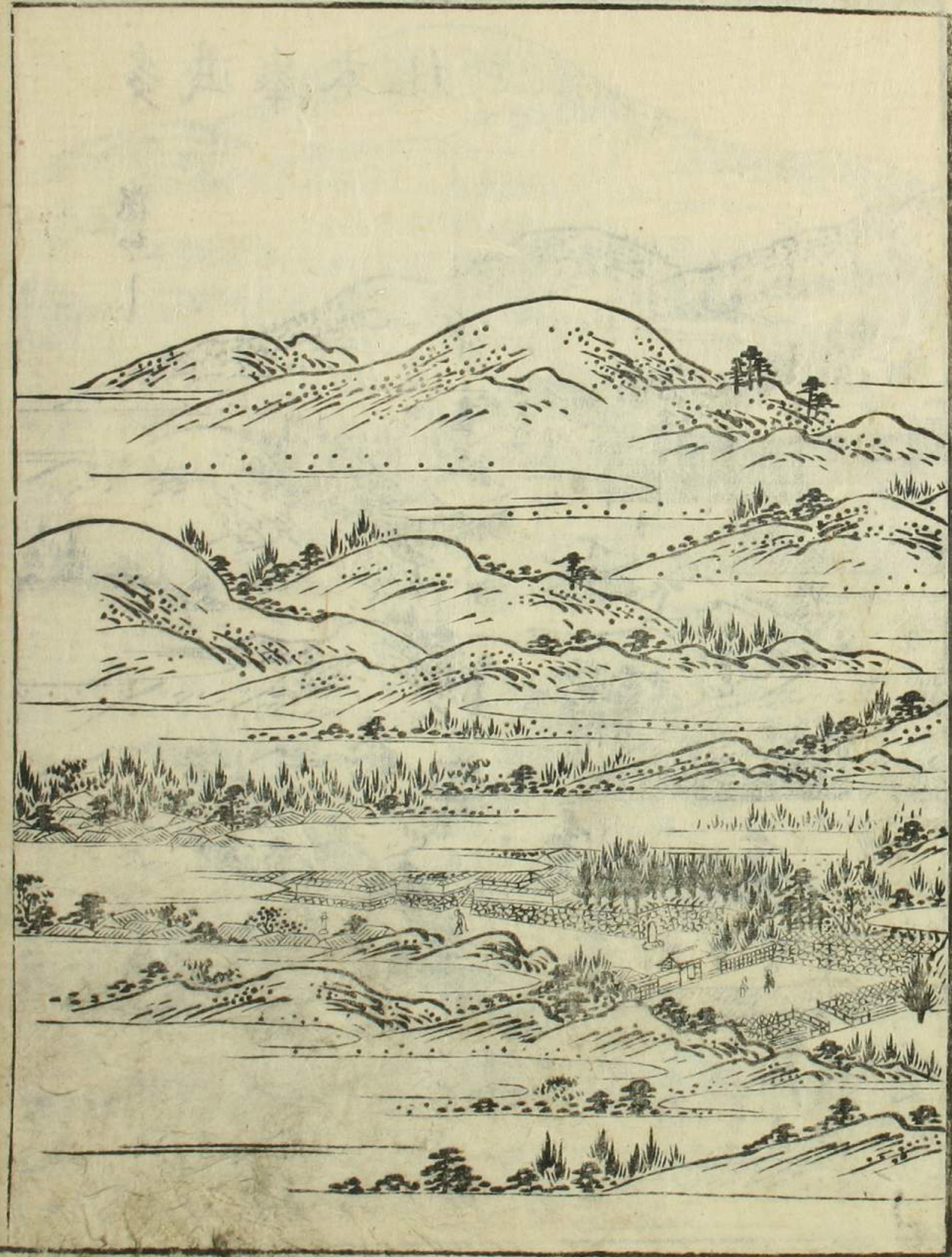
大 織 冠 和 尚 在 唐 の 時 薨 せ り 接 津 國 に 威 を お こ す り 一 靈

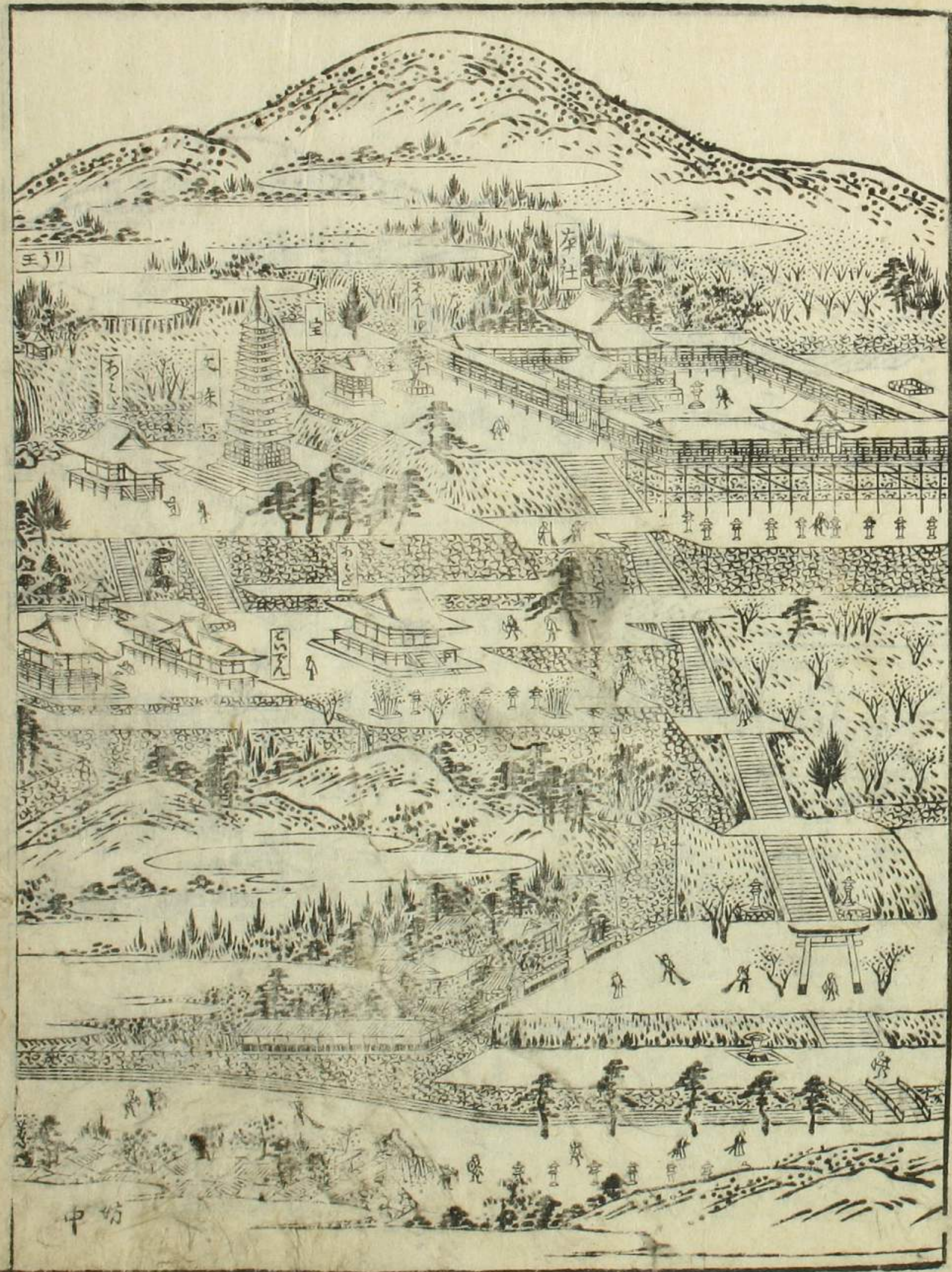
一 心 を く り い と 和 尚 の 心 を く り 一 心 を く り 一 心 を く り



勝の區と後う五臺と小堂と我を仰ふ華と云はる孫と云  
久と云はわとありと中華小あり時後人々のあり我を  
諸家に居る大織冠する人々をひく古今天上の生かうとけ  
地小堂塔と云うと仁多と後す其時己巳歳十月十六日夜二更之  
不比等先君の薨すれと其年月日と後の年とを感後神に  
ひく一々をありと和尚の威ふり遺骸とありて談家小改葬  
すれれば其う来朝の塔と建らる小一重不足と云はるひく  
と後う小のそり塔材を小堂と風ふさむく飛来りて終  
十三重塔成終りたりと文殊菩薩と管作ありと安んずひたり  
釋書 枝桑畧記談峯畧記  
古縁記考小久くあり  
聖靈院といふ異光附大本のやう小現と一より定恵和尚こ  
大の殿舎を建ゆ荷西記其後真界大法師長者貞信公ふくひたり  
一と神宮造あり要記大織冠の像に近に圓え勇丸を所造あり荷西記

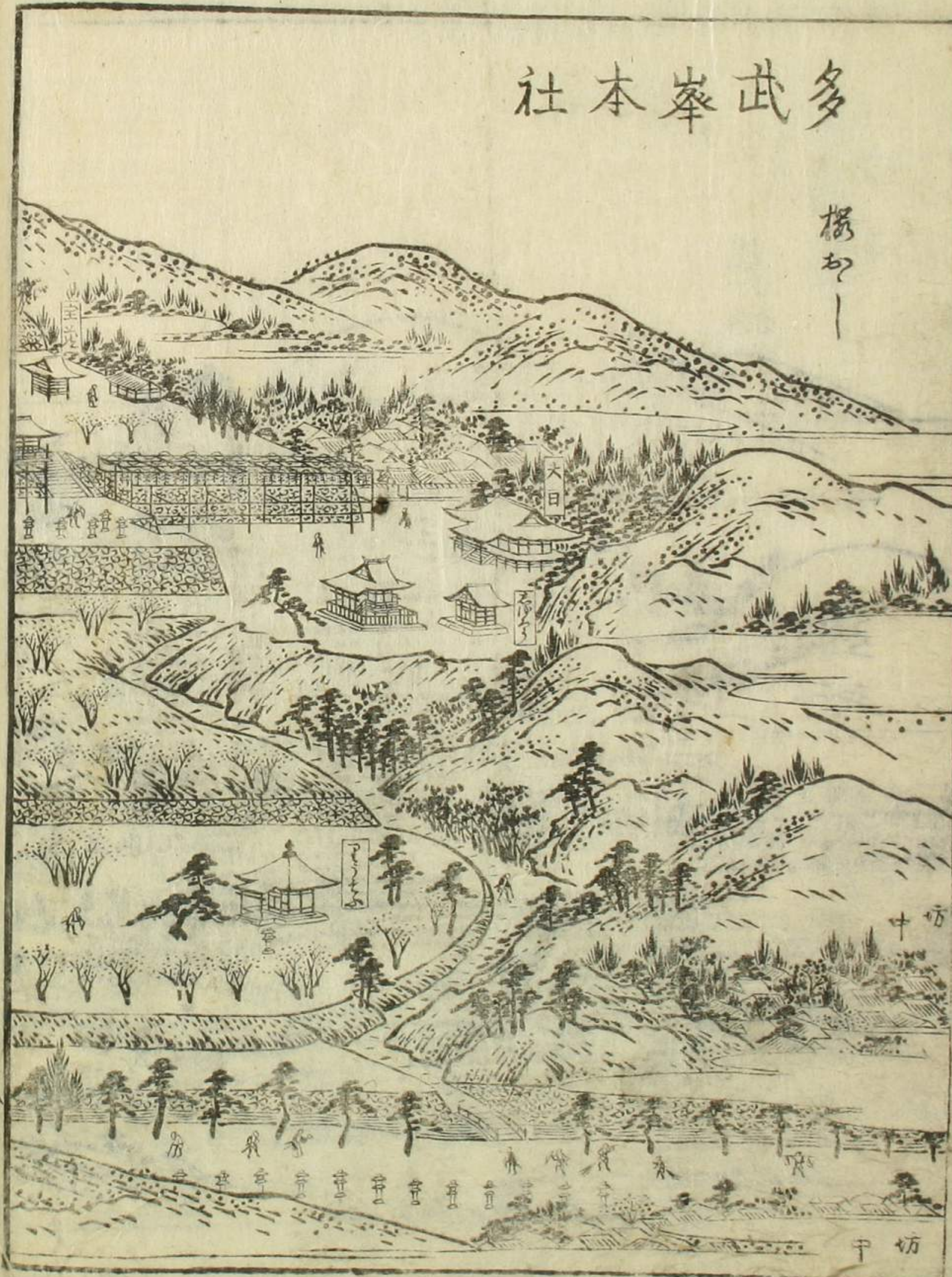
又檢校千満法師の像と云ふとあり古老相傳曰え勇丸志造の像の  
千満法師のほろは像の中収く安んずり神階正一位勳一号又延  
長四年小談と檀現の勅號と賜り極井の厨子香載色より多武考  
毎小石標を建るは華表額談峰大權現日光御門主御筆延年安永丁酉歳三月路くは額と云  
妙樂寺の聖靈院と号し寂冥なる地神あり心の月と云ふ  
香をたてたてしは風物と云ふ樓門軒と云ふ寶閣いと巍  
くありいあふ十と云ふ塔城と云ふて眼が簾と云ふ拈花尊者  
伊尹公の建多し常に三昧堂と云ふ級中ら定恵和尚の遺像  
堂如覺法師の啟白七十余所諸大明神と云ふれ禪堂の神祠  
定恵和尚の所創の講堂大納言経輔に大慈に長長房の法施乃  
温室号と云ふり代々公孫ゆきと云ふ今に好むと云ふり  
金堂實住僧都の如法堂村上天白の勅預り法儀二昧堂塔政と云ふ長  
伊尹公の曼陀羅堂中興院の勅願の普門堂座主真界の念堂号と云ふ年  
諸伽藍といふと武考記ふくあり



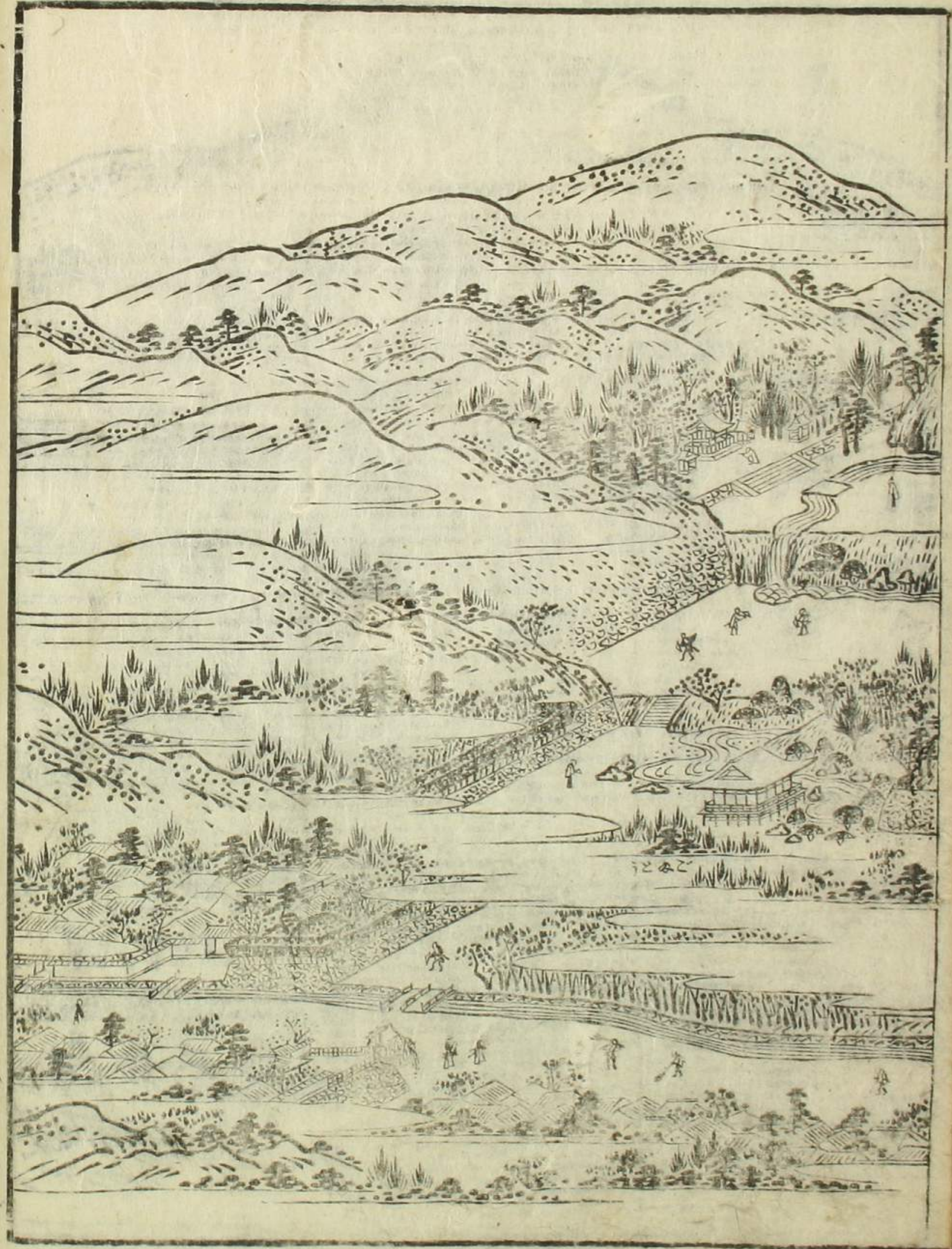
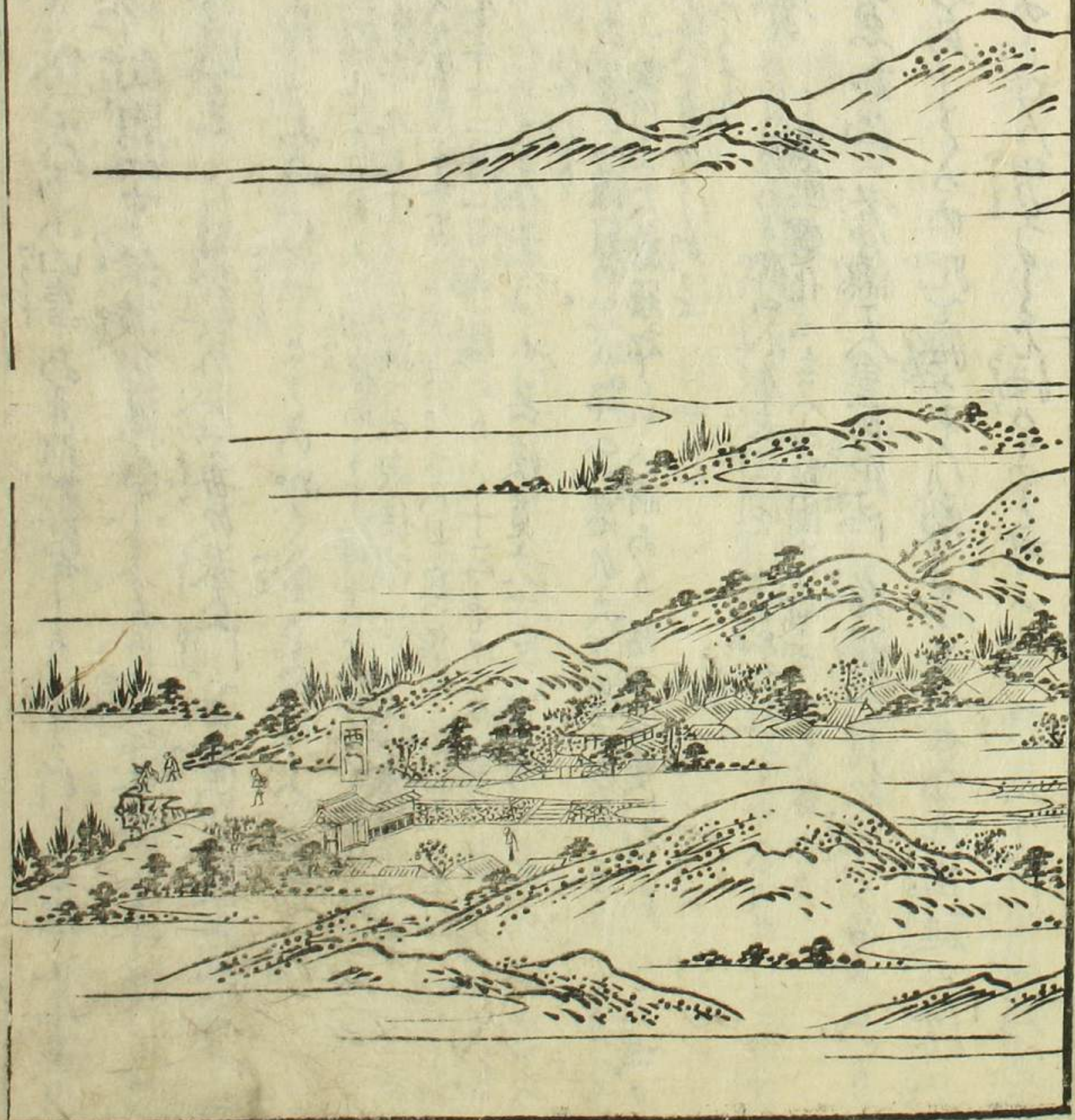


多武峯本社

櫻切



多武峯  
西門



大織冠の尊像天下凶事ありて破裂し今所永承元年正月廿日右方の布面額甲余破と銘ひしより已未文治二年十月二十日あり其後と云は破裂のた毎に奉門と題し其勅使登りありて宣命よりみりた必と云ふに如く愈々せりしと云  
再興の白河院永保元年二月八日圓縁のしり釋書に記し其後再興あり又右院天仁元年九月十日貞福の衆徒塔起し灰畫しり其の其後再興ありと云ふ右院永安二年六月廿八日貞福塔起して炎上せり同所宇治義元年十二月二日塔起ありて十二層塔を建り願文を大和國彦根佐人右馬冠藤原教あり其後寛文七年公覺の法住しり今この如く所造管あり  
郡之雜記云武家大織冠の社が郡之遷り天正の末あり其所を今も大織冠といふ城内之大織冠社といふ樹あり塙田右衛門尉郡之在城の時社が又武家名にり  
足摩長のしりりり  
開基定慧墳 當ちあり碑曰唐求法大師定惠和綱七年六月廿八日春秋七十塔遷化と云ふ城園本藩寺と云塚あり  
それと定惠和尚の孝徳天皇の妃市着帯六月に成り入あり帝大織冠と云ふの妃と母とをいゆふえとせん出誕の後女ありて朕がよとせん男と云ふを母とせんとの勅がうけ月備は

男子序日孫大織冠の子と云ふ門惠源の女子と云ふと云ふ  
ある一定惠と我と云ふ布母車持夫人車持國子の女あり  
増賀上人墳 當ちあり上人の泰儀正四位下橋恒平の子と云ふ 名利といふ位官の昇進と云ふかへば或は内論義の絶りあり  
あると云ふ人といふは争ひ論がとせりたり又解ふと云ふと  
慈惠の僧正任すとの駒にともて干鞋と云ふ小の骨くざり  
ある女小の志あると云ふ太皇太后の戒受ありと云ふを宮中より  
せり兼語が吐く立せり 拾遺 佛の肉眼小のけをゆるくは  
かたがとて空しくつと云は其後観別より下向の道と云ふ直襟  
小ありて敷と云ふをそれより武家にこりかへりて妻老の時  
たひり其各盤小むけ生けるせ死せると云ふあそふと云ふ  
障匠と云ふ 胡蝶の舞小社かひり たり け あり あ や あ び あ び  
と云ふと云ふ我初と云ふ時は二事と云ふ小棟らと云ふと云ふ止りて念

アノコトハ生れ死の概ニヨリトモせんト斯クモレト書ラレヨリ  
長保三年六月八日

み川にさかたし十ありの老の波海月の骨あひふらるるか

中と縁し〜九日おの金剛印かじむい安禪〜して終りあれた年終  
八十

二十年分経〜廟とひ〜ふ全身やぶとど色ぞふ變せざるや〜や

釈書往生傳發心集  
檀賀行業記

如覺禪師墳 飯盛塚 飯盛塚にあり俗ふけ禪師の父は九條右大臣藤原帥輔公

母延喜帝の皇女前齊宮稚子内親王より童名をまうちあさねとを

す下し生長たむしては光女將とらんひたりてかあらんみ〜

とれふあひなり〜りける東よりあり〜ゆ〜とあつた〜の〜

た〜か〜〜ゆにぶ〜して〜りひ〜ら〜を〜月〜の〜ぬ〜も〜入〜ま〜み

の〜び〜り〜て〜れ〜た〜か〜ん〜ひ〜

や〜ん〜ひ〜な〜ら〜る〜葉〜の〜中〜に〜〜は〜ほ〜く〜と〜ら〜る〜月〜が

少〜う〜み〜お〜ひ〜て〜そ〜の〜曉〜に〜家〜が〜出〜法〜師〜に〜さ〜り〜ま〜ひ〜ふ〜け〜の〜帝〜し〜ら〜み  
〜う〜あ〜ら〜れ〜が〜〜せ〜れ〜

都よりまの八を〜河奥の横川乃軒とよぶよらん

九をのうらほ〜ほ〜〇とを〜し〜てまの八を〜河奥の〜

〜ら〜れ〜横〜川〜小〜と〜あ〜せ〜ひ〜〜せ〜う〜〜後〜〜を〜出〜寄〜ふ〜と〜み〜あ〜い〜は

〜ん 葉を悟大徒續世継

加佐く寄山 紅葉洞 共小けこの異名といふ  
初撰類字名所集云未載

王葉集 於川の親事の末意法師小若若ひらるる

いたな〜ら〜れ〜と〜ふ〜な〜ら〜る〜〜お〜の〜や〜れ〜月〜が〜あ〜ら〜れ〜よ

淡海公贈大正一位淡海公は若老正三年八月一日薨一終ひ〜

大和國十市郡名武生一  
兩槻宮 武生郡の西北小槻名根槻といふ所あり此此之齊明天皇の

若櫻神社 振井の谷にあり今白く権現と称す



撰集抄目  
むす 坊 賀 聖 人 と い 入 人  
い そ くり け り い け け け け け  
け け け 道 人 入 け け 七 天 台  
と の 根 本 中 堂 小 千 夜  
こ の り 七 夜 の い け け け  
さ け 堂 の ん け け け け  
け け け け 中 界 後 小  
大 和 國 多 武 山 嶺 也  
け け け け け け け け  
入 け け 朗 寂 降  
の け け け け け け け  
け け け 小 七 居 け  
け け け け け け け

等彌神社 橋井の谷邑の南小あり

高屋安陪神社 安陪本山小あり一ノ辺の若橋社の傳に今

用明天皇陵 谷長門二村の畷小あり

東光寺 橋井村小あり一ノ邊の磐余堂又ハ櫻井寺と號シ大永大正乃ハ

上宮 上宮村小あり上宮を子の庭にひ一新ニ其後ちと一ノ上宮と號シ

栗原 栗原村の上小あり一名本村山ノ層雲寺ノ一ノ邊ニ墨染櫻ノ

下居神社 下村小あり一ノ邊ニ此ニ代實録出

倉梯 倉梯村の上小あり一ノ邊ニ此ニ代實録出

倉梯 日本倉梯 古事 紀 棕橋 三代

倉梯 倉梯の山小あり一ノ邊ニ此ニ代實録出

拾遺 三月廿二日橋井の郭におぼろぐもあたるるるハ

竹のあはれ わくさの光衰たうもさぬ一ノ邊の山小あり一ノ邊ニ

三代實録白貞觀十一年秋七月八日十部郡棕橋山河岸崩裂高二丈

深一丈二尺其中有鏡一面廣一尺七寸採而獻之

棕橋川 城上郡と一ノ邊ニ此ニ代實録出

崇峻天皇陵 高十三間廻八十二間中石棺あり高三尺八寸長

下居里 其新とらるる一ノ邊ニ此ニ代實録出

七ツ井 安部村小あり七ツ井小あり

音羽寺 南音羽村小あり一名音法寺と云々觀音靈應の地あり

荻田寺 荻田村小あり一名荻田寺と云々武家記曰

山田寺 山田村小あり一名華嚴寺と云々德天皇五年後我倉と田

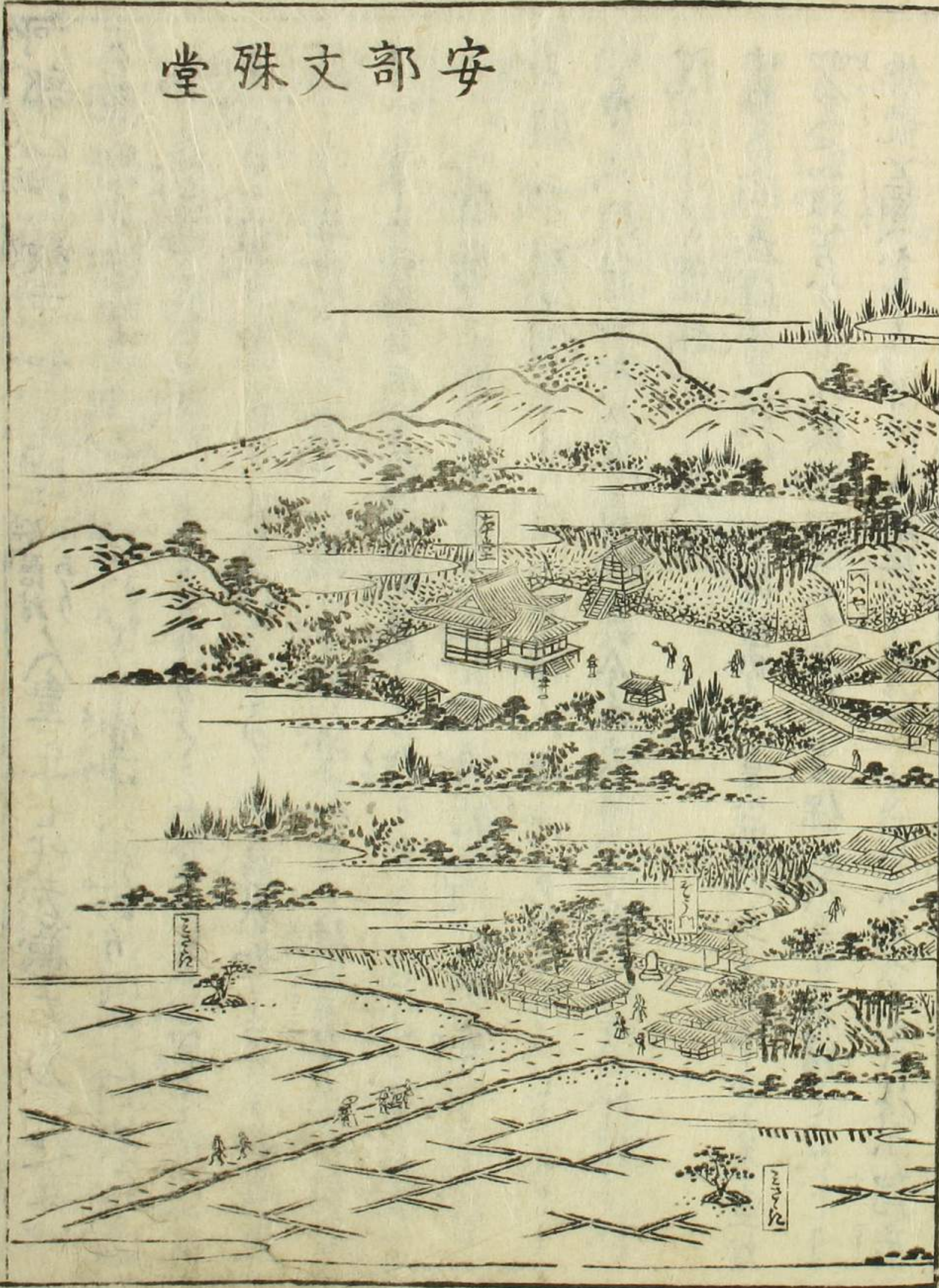
東大谷日女命神社 山田村小あり今ハ橋と稱ス

七ツ井 安部村小あり七ツ井小あり

荻田寺 荻田村小あり一名荻田寺と云々武家記曰



安部文殊堂



阿部山崇教寺智足院はつり人皇二十代孝德天皇十化年中  
の草創あり本尊文殊大士もんじいひく一室いつしつ小光あり時小川大少君  
初一石窟いわほら小おの落ける者ありまきりくさねかんと量りょうきす分の  
美金の文殊の霊像りやういすく温ぬるるる人の層かさねの如ごとく尋たづねらば感かん  
得とく安陪あへと小安あん一後小安あんの縁ゆかり小おをく佛量ぶつりやう九尺乃像やう成  
住すまく一の霊像りやうを眉まゆ向むか小彫籠ちやうろうよりかたそとより利り生せい疾しやくく小あ  
く小如驗にょげん日々にちじちまほく奥列おくりやく永井えいせい丹後たんご列りやく切門きりかど和別わべつ安陪あへとくは  
本朝ほんてうと文殊大士もんじく遠えん迎むかの諸人しよじん渴かつ作さくせむとい人米ひとこめふり  
いみ一い大日如本おほひつね本尊ほんそんと今の大日堂おほひつねこれと文殊堂もんじだうと別  
院いんとく満願寺まんげんじと號ごうと  
中興ちゆうきやうの国基くにもと遷うつ覺かくは門かどと豊後國ぶんごの人ひと之の兼曆かねりやくと平安陪へいあんと小茶室ちやしつは  
のる人ひと非ひとふくみ頭密かぶつみつとほかをれしが保延へいえん六年衆僧しゆしやうとことと  
佛號ぶつごうと楯たてふくく小陀たをを膽たん作さくして塔たつくも月つきふくもくは終しゆう小梵ぼん居い

く入寂にゅうじやくせり其後そのご二十七日にじゅうしちにち分ぶん終しゆうぬとと又また印いんの更さらにみされと遺言いごん  
小志こしくく佛堂ぶつだうの下した小納せうなり肉にく才さいやぶとほ今いまよりいすく  
釋書しやくしよ小くくまが九十一くわじゅういち  
文殊大士もんじ天てん遊りゆうりまひひ一石窟いわほらと堂だうの巽むすひ小あり  
池邊いけのへ雙ふた柳やなぎ宮みや安部長門ちやうもんの向むかありとい日本にっぽん紀き曰いわ用もち明天みやうめん天皇てんわう元年げんねん般はん余よ雙ふた  
般はん余よ池いけ般はん余よ那ないかりまるく  
後拾ごしやくを  
いそと那なのたれれ那な分ぶんちとまきり那なのちとまきり系意法師  
兼かねたれ後ご小くみせん勢せいふくいとそ那な乃な杖しやくの夕ゆふと也や茶内ちやうち官くわん帥しゆい  
勢せいふくいとそ那なのたれれ那な分ぶんちとまきり那なのちとまきり系意法師  
後拾ごしやくを  
あつ小の般はん余よ那なの女によ布ふたうまらめとと並ならび勢せいふく候こうへふ知  
うた世よといとそ那なのたれれ那な分ぶんちとまきり那なのちとまきり系意法師  
勢せいふくいとそ那なのたれれ那な分ぶんちとまきり那なのちとまきり系意法師  
王わう德とく宮みや皇廿七にじゅうしち代だい體たい天皇てんわうの樟ちやう葉えつ宮みやとく昂かう位いありと同どう所しよ入い入い年ねんと  
とそ那なのたれれ那な分ぶんちとまきり那なのちとまきり系意法師  
とそ那なのたれれ那な分ぶんちとまきり那なのちとまきり系意法師  
とそ那なのたれれ那な分ぶんちとまきり那なのちとまきり系意法師



土舞臺

後新村の... 土舞臺と云ふは... 土舞臺と云ふは... 土舞臺と云ふは...

阿倍

夫本集小大和國... 阿倍... 阿倍...

安倍島

勅撰名所集未... 安倍島...

風雅

あべ島の... 風雅... 風雅...

新撰

あべ島の... 新撰... 新撰...

甕栗宮

清寧天皇... 甕栗宮... 甕栗宮...

稚櫻宮

比内村... 稚櫻宮... 稚櫻宮...

市磯池

比内村... 市磯池... 市磯池...

十月殿

比内村... 十月殿... 十月殿...

花

花... 花... 花...

宮

宮... 宮... 宮...

香久

香久... 香久... 香久...

要

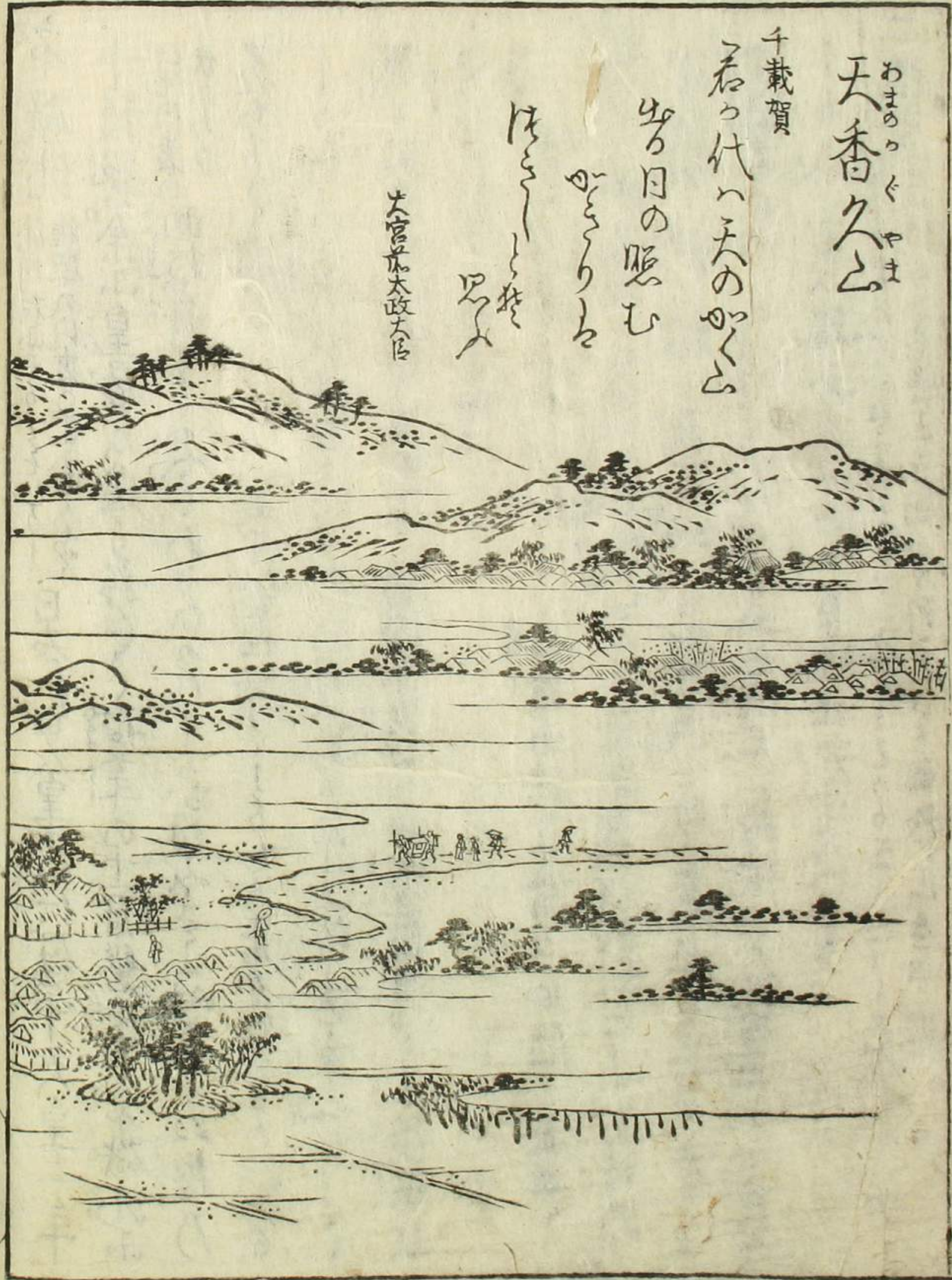
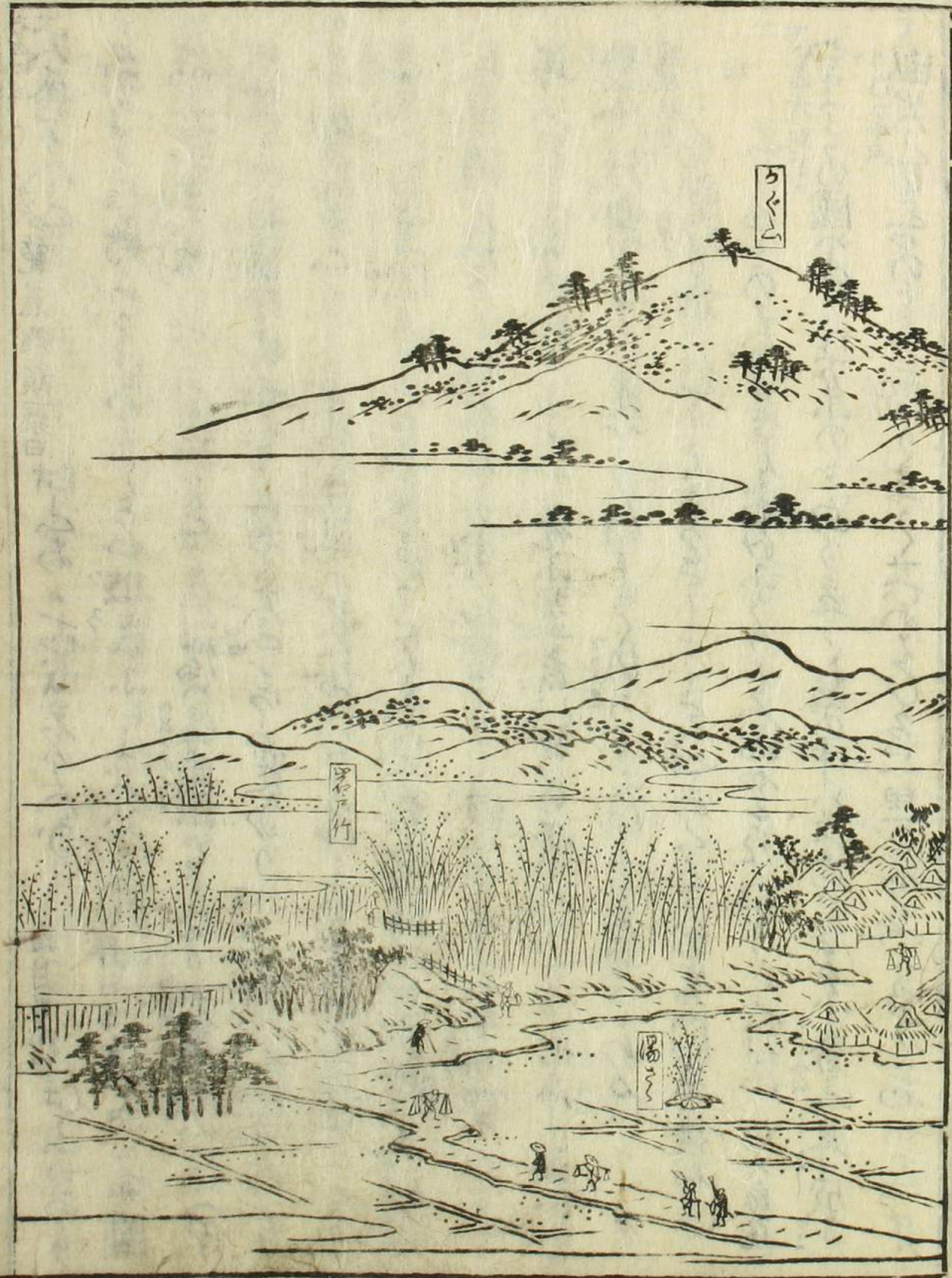
要... 要... 要...

文殊

文殊... 文殊... 文殊...

二階堂

二階堂... 二階堂... 二階堂...



わまのくぐやま  
天香久心

千載賀

君の代り天のゆく心

歩の日の照む

かきりり

ほろり

思ふ

大宮加太政大臣



此の人を名を香久とて我いとて思ふべしとてふ思ひよりさぬけ  
園(り)くんけいけいよるあ〜とてふは集の中大兄命のこよれ神の  
すこ藤原宮の神井の舟其外けとよる舟もさるふ必今ふか  
ふ遠ひか〜とてふよりよるひか〜とてふ神の神いもさるふ  
ことさるふのさるふと今も思ふもさるふもさるふありあ〜池と  
多く埋く見所さく成〜と悲〜と思むひく〜のさるふもさるふ  
らん状と筆さ〜いあ〜志のづんふ侍人侍り〜

又或書ニ古老の日多武志家の東にあ〜とて思ふ俗にさるふとていふは  
賦ふる藤原村あり古来の天香久といはさるふとて思ふ今もさるふ  
〜いあ〜より續〜との思ふか〜天香来とて思ふ〜とさるふ  
さるふを低くさるふとて思ふか〜今も思ふ〜とさるふ  
さるふひく〜とて思ふ〜と今も思ふ〜とさるふ  
所とのさるふ〜とて思ふ  
詞花  
いあ〜の思ふぬを我みてもさるふとて思ふ天乃がく〜 後人ふ知  
あ〜の思ふぬを我みてもさるふとて思ふ〜とて思ふ一けん 大に嘉言  
は 久方のおぬれがく〜とて思ふ目もつら方〜とて思ふと光さるらん 新院神製

新古今

ま〜とて思ふ〜白妙の夜を〜とて思ふあまの〜と 持統天皇  
十さるふさるふ〜とて思ふ天れがく〜とて思ふれいゆ 後頼朝

後醍醐

あつ〜とて思ふの月日〜とて思ふふらるふ天の〜と 後成  
久〜のさるふ井のさるふとて思ふさるふ天の〜と 後醍醐

後白

夕奈さるふ天の〜とて思ふ〜とて思ふ井のさるふとて思ふ〜と 定家  
天さるふ神の〜とて思ふ〜とて思ふさるふとて思ふ〜と 定家

後拾遺

久方の天れがく〜とて思ふ〜とて思ふ月日〜とて思ふ天乃がく〜と 家隆  
神代〜とて思ふ〜とて思ふ〜とて思ふ月日〜とて思ふ天乃がく〜と 正二位家

香具山離宮

持統天皇の離宮なり  
天香久との和名廿一代集の内九二十首あり  
香久と神社の地へ傳ふ漏糸あり神宮の糸といふ

天般名戸

湯釜 眞經の二所あり〜とて思ふ天盤戸あり其あり  
は神湯釜なり利の七竹あり  
古語拾遺曰 天香具の洞と取〜とて思ふ日像鏡と鑄  
元元集曰 天香久山の竹が吹く笛とて思ふ





天香の聖櫛真命神社 香具山北の麓あり 本浦村小属と北浦村と称するの

埴安池 本浦村小あり 今後池といふに置地抄藤原の末大和國よりとせ

畝尾健土安神社 下馬鉤村小あり 今天照古社と称す

啼澤社 本村小あり 舊事紀曰啼沢社神は香具山の畝尾の樹下に坐して

哭天澤の神社 小田原といふ 我王者高日也

畝尾都多本神社 本村小あり 本名此出

膳夫村 安陸より三町あり 井つとく冷水かきとくりは里

吉備の別業 吉備村 大福村 は里の二町あり 用明帝殯葬の地あり

耳成 本村小あり 無名無名本村上より小田原に面田野あり

施子 本村小あり 施子とていふ

耳無川 本村小あり 耳無川といふ

耳無川 本村小あり 耳無川といふ

耳無川 本村小あり 耳無川といふ

耳無川 本村小あり 耳無川といふ

耳無川 本村小あり 耳無川といふ

耳無川 本村小あり 耳無川といふ

耳無川 本村小あり 耳無川といふ

耳無川 本村小あり 耳無川といふ

耳無川 本村小あり 耳無川といふ

耳無川 本村小あり 耳無川といふ

耳無川 本村小あり 耳無川といふ

耳無川 本村小あり 耳無川といふ

耳無川 本村小あり 耳無川といふ

耳無川 本村小あり 耳無川といふ

耳無川 本村小あり 耳無川といふ

耳無川 本村小あり 耳無川といふ

耳無川 本村小あり 耳無川といふ

耳無川 本村小あり 耳無川といふ



耳成山口神社 耳無の新賀北本石原常盤葛本山坊等の氏神也

耳無行宮 本原村舊址に推古天皇九年 耳無井 耳無山の西北あり

英化池 内膳村 葛本神祠 葛本村あり

常盤里 耳無のひろくあり藤原州大和國といふ

草根 秋そとつらねをれ里人へつらねをよるやうにらん 佐藤兼基

梅小撰集小常盤山常盤社多なる奇多し一と城國といふ

猛田原 東竹田村あり神武天皇八十集解に載し一と城國といふ

竹田神社 東竹田村あり今今八所社と称す

坂門神社 中村あり今 御厨池 十市村 碓塚 十市村

十市御懸坐神社 十市村あり今十二社と称す

笠縫邑 十市新本二村の向あり小洞あり 崇徳天皇六年天照太神の神籬なる小立

十市里 一と光寺 十市里なる井

新吉介 今ふかりのいと近く月さくくふの里小衣うのいそ 式子内親三

王系 十市より吹くる風の匂ひをそなたもとふはるる人也けし 崇徳院

風雅 櫻咲とそちのむれゆふ雲にたおろし人帰けり 後伏見院

新獲吉介 十市より吹くる風の匂ひをそなたもとふはるる人也けし 崇徳院

千代神社 八條村あり今八幡と称す 子部神社 飯高村あり

屋敷神命神社 大垣村あり今八幡と称す 百濟宮 飯高村あり

鏡作伊多神社 穂津村あり今八幡と称す 御明神の皇居あり

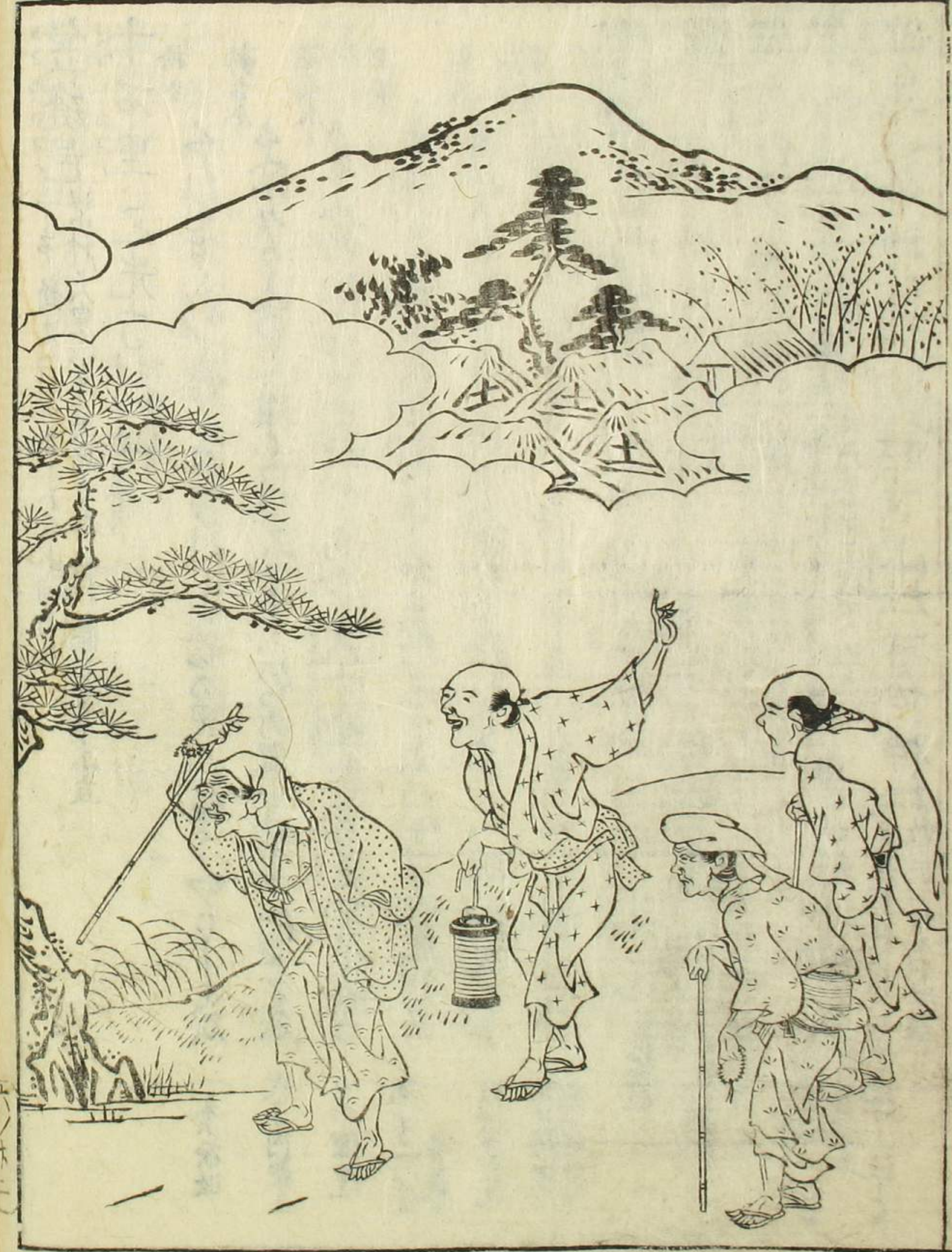
多神社 多村あり額一筆正一位多子大明神と書す 皇子神命神社 多社の神あり

姫皇子命神社 多社の東あり今下社と 小杜神命神社 多社の西あり今下社と

多神社 多村あり額一筆正一位多子大明神と書す

皇子神命神社 多社の神あり

小杜神命神社 多社の西あり今下社と



吉邦郡 東へ物別 飯高郡及び紀州牟婁郡の界に至り 西へ紀州牟婁郡の界に至り 南へ山登疊々として封境 他郡小をくく後大なり 日本紀曰

神武天皇吉邦小至り 於此 射光ありて 井中より 出る人あり

天皇より 反問す 汝は 何人ぞ 對て 曰 臣は 足國神より 名を 井光

と云ふ 則 吉邦 首部の 始祖なり 云々

小川 龍 吉邦郡 小川 莊 龍村 あり 高見山の 麓に 遠く 末を 國極小

洛陽 清水寺 舊址 或は 津川と 吉邦郡 龍村の 川より 名を 承り あり

の 舊址 小あり 小流の 延鎮 龍居士 なる 津川の 上 金を 乃 出ん

又 津川 津川と あり 釋書 之 定川と 云は あり 云々

高見山 小川 莊 平 邦村の 東 あり 向名 高角と 云ふ 山 嶺 巖々 云々

天狗巖 獅子巖 冠岩 高見山の 南

高角神社 今 水 分 祠 あり 人 神 名 出 蘇嶽 盤谷村 あり 岳 云々 聳 云々

和佐羅瀑 蘇嶽 あり 長 蘇嶽 人 蘇嶽 常 小 法 蘇嶽 蘇嶽 蘇嶽

海部峯寺 蘇嶽 あり 蘇嶽 上人 蘇嶽 蘇嶽 蘇嶽 蘇嶽 蘇嶽

龍門山 蘇嶽 あり 蘇嶽 蘇嶽 蘇嶽 蘇嶽 蘇嶽 蘇嶽

懷風藻曰 葛野王 遊龍門山 命 駕 遊 山水 長 冠 冠 冕 情

安得 王 喬 道 控 鶴 入 蓬 瀛

龍門瀑 蘇嶽 あり 蘇嶽 蘇嶽 蘇嶽 蘇嶽 蘇嶽 蘇嶽

伊勢家集 蘇嶽 あり 蘇嶽 蘇嶽 蘇嶽 蘇嶽 蘇嶽 蘇嶽

蘇嶽 あり 蘇嶽 蘇嶽 蘇嶽 蘇嶽 蘇嶽 蘇嶽

蘇嶽 あり 蘇嶽 蘇嶽 蘇嶽 蘇嶽 蘇嶽 蘇嶽

蘇嶽 あり 蘇嶽 蘇嶽 蘇嶽 蘇嶽 蘇嶽 蘇嶽

蘇嶽 あり 蘇嶽 蘇嶽 蘇嶽 蘇嶽 蘇嶽 蘇嶽

蘇嶽 あり 蘇嶽 蘇嶽 蘇嶽 蘇嶽 蘇嶽 蘇嶽

蘇嶽 あり 蘇嶽 蘇嶽 蘇嶽 蘇嶽 蘇嶽 蘇嶽



妹背山

貝原篤信 和州巡覽記曰

上り龍門の谷川沖小入は地の高きお旁小河  
と云ふ妹背山とてあり飯田の方にあるが昔中つりあふ古城の  
形も龍門の方あるが妹背とて東之足は妹背とて山は  
えり山は同一と云ふるは川を流るを相向つてあつたから所  
海流る妹背山と名所之古寺多く大付首の坊あり流る小古寺小古寺  
小古寺あり紀伊にふる寺あり故小原昭宗神中法王古寺あり  
妹背山紀伊ありと云ふる古寺河の下小ありといふ法皇といふ  
紀伊小あり川中ふあり流るり山とていふ妹背といふ寺あり  
小古寺日本紀伊徳紀とて紀伊とていふは妹背といふ寺あり  
古寺名所の多けれは中つりあふる寺多く古寺の妹背山と古寺の  
秋小古寺あり紀伊の足のと古寺のふあつた後後拾遺は家  
ふありといふ所あり妹背山とて是とて今一是より外より古寺川  
の末紀伊の瀑とていふは妹背山とていふ寺ありといふ

後撰

金葉

後撰

後撰

後撰

後撰

後撰

後撰

後撰

後撰

後撰

後撰

後撰

後撰

後撰

君と日と妹世のこも秋をれを色らりめりお小我者あり

妹背山とていふは

わささる候の末やはらん妹世のこれ中乃流は瀬 土御門院

川の流る所の川は

川の流る所は

とて急流なり

妹世川昔ふる

流るるは

とて急流なり

元明帝朝人

和藤原大政遊吉野川之作 從五位下陸陽頭兼皇后宮亮 大伴連首

地是幽居宅 山惟帝者仁 潺湲侵石浪 雜沓應琴鱗

靈懷對林野 陶性在風煙 欲知歡宴曲 滿酌自忘塵

吉野と記曰宮殿より十町より川下に妹背山あり妹背山とていふ川は流るるは

あつた

吉野山 一名 金御嶽 又名 金峯山 又名 國軸山 拾遺抄曰 天皇佛生國

のこの國に廟ふぐりて来りけしと云ふ事と曰藏上人の傳りも久しくりて乃

説きと後々の五基に其家の塔の如くもまふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

江中納言のむすひ佛塔の所願文も少くも其記をれりて貞宗深解を

と後々も小金峯と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

ありて小金峯と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

花時より積雪の朝れば 騷人墨客もに遊賞し 其名中華小字

つく天下の名勝なり 篤信翁曰真小類と云ふ事と云ふ事と云ふ事

金峯と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

中々も圓へりてと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

万葉集の二下風の事を云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

古今 みるにこれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

古くよりこれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

月夜にこれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

拾遺

月夜にこれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

月夜にこれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

月夜にこれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

月夜にこれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

月夜にこれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

月夜にこれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

月夜にこれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

月夜にこれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

月夜にこれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

月夜にこれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

月夜にこれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

月夜にこれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

月夜にこれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

月夜にこれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

月夜にこれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

月夜にこれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

月夜にこれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

月夜にこれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

月夜にこれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

月夜にこれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

月夜にこれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

月夜にこれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

月夜にこれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

月夜にこれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

月夜にこれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

月夜にこれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

月夜にこれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

月夜にこれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

月夜にこれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

月夜にこれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

月夜にこれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

月夜にこれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

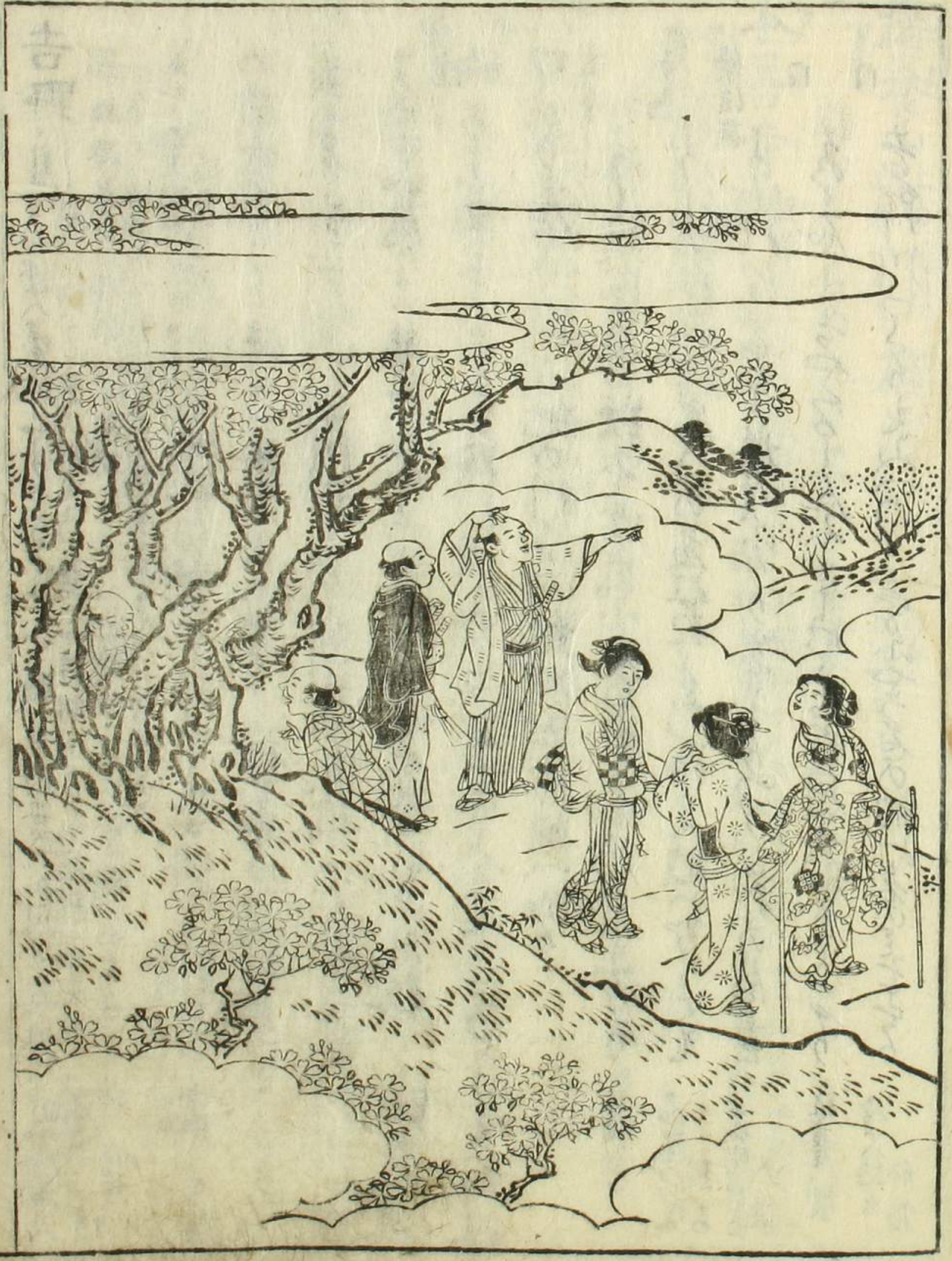
月夜にこれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

月夜にこれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

月夜にこれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

月夜にこれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事





吉野



新古今  
うし  
おのの枝折の  
乃心  
まごね  
おん  
あけ

吉野川 源大基源より下りてく。鹽平兼伯母谷和田多古白川渡人知大

國抽極尾八尾の茶摘村に至り茶摘川といひ宮瀬の末を二所飯貝。

和州巡覽記 吉野川その水上なるをむむぐのまづく萩の下流とよ

ゆゆ奇のこゝ海を一所舟をあぐうと流を舟と舟を舟と舟を舟と

舟を舟と舟を舟と舟を舟と舟を舟と舟を舟と舟を舟と舟を舟と

舟を舟と舟を舟と舟を舟と舟を舟と舟を舟と舟を舟と舟を舟と

舟を舟と舟を舟と舟を舟と舟を舟と舟を舟と舟を舟と舟を舟と

舟を舟と舟を舟と舟を舟と舟を舟と舟を舟と舟を舟と舟を舟と

舟を舟と舟を舟と舟を舟と舟を舟と舟を舟と舟を舟と舟を舟と

猪養山 上村の川櫻渡 池田村小あり

本善寺 飯貝村小あり親鸞聖人八世蓮如上人の建立なり系師宛在願寺小

六田淀 六田村小あり吉野の標小あり西之柳の宿といふ

芳野と心とあまの川つと心をそとんを安んじ飯貝蓮如上人

吉野水分神社 舟治村小あり毎歲四月吉野と信來りく社大のこゝ

一之坂 多治のこゝの妻冠を井雅章卿

三芳野や標一本小せんをくく口志庵へ白く入るを

大納言 雅章

大納言 雅章

大納言 雅章

大納言 雅章

大納言 雅章

大納言 雅章

大納言 雅章

大納言 雅章

四の掛神祠 七曲の櫛

吉野紀り 花のゆへに七曲の櫛も平にこれ神の心かてしけ 大納言 雅章

芳野の花のゆへに七曲の櫛も平にこれ神の心かてしけ

多分と 神さるるの已凝敷ふし 此の心かてしけ 大納言 雅章

丈六の一藏王堂 一藏王の 丈六の道に末とひとりの流にたり 吉野紀り

長崎薬師堂 一藏王の 丈六の道に末とひとりの流にたり 吉野紀り

千本櫻 桜とて一月の心かてしけ 吉野紀り

吹はるる風とて七曲の櫛も平にこれ神の心かてしけ

富士とて花一時乃より一のや満 鬼貫

花さるるの目とて人の物ほらるる 乙と云

さるるの目とて人の物ほらるる 貞室

日本花 七曲の櫛とて七曲の櫛も平にこれ神の心かてしけ

七曲 是より多武家の物ほらるる 巡遊記曰吉野とて小寺とて六田とて

日本花 七曲の櫛とて七曲の櫛も平にこれ神の心かてしけ

日本花 七曲の櫛とて七曲の櫛も平にこれ神の心かてしけ

日本花 七曲の櫛とて七曲の櫛も平にこれ神の心かてしけ

日本花 七曲の櫛とて七曲の櫛も平にこれ神の心かてしけ

日本花 七曲の櫛とて七曲の櫛も平にこれ神の心かてしけ

日本花 七曲の櫛とて七曲の櫛も平にこれ神の心かてしけ

日本花 七曲の櫛とて七曲の櫛も平にこれ神の心かてしけ

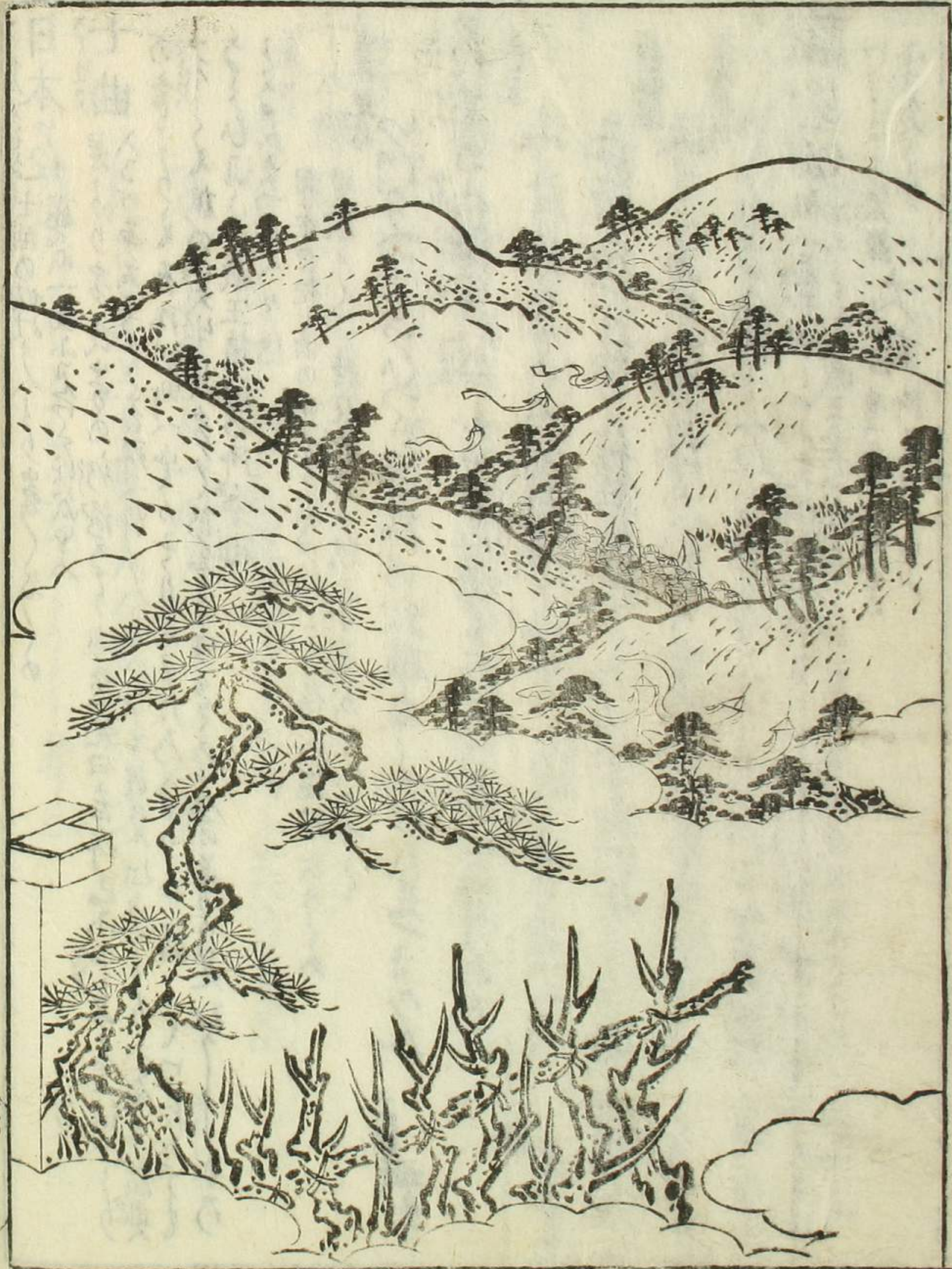
日本花 七曲の櫛とて七曲の櫛も平にこれ神の心かてしけ

日本花 七曲の櫛とて七曲の櫛も平にこれ神の心かてしけ

日本花 七曲の櫛とて七曲の櫛も平にこれ神の心かてしけ

日本花 七曲の櫛とて七曲の櫛も平にこれ神の心かてしけ

元弘三年正月十六日  
 大塔官吉中務一  
 六萬餘石を以て  
 攻めたり大塔官の所遣  
 小立矢七を以て  
 然るに...  
 義輝...  
 蔵王堂...  
 依小...  
 権...  
 一...



櫻樹 右井坂の

金鳥居 額と發心門とあり弘法大師の御まもり

二天門 金剛力士の二天門 本堂藏王権現佛量二丈 脇士九

金峰山寺 六田より樹坐するの 本堂藏王権現佛量二丈 脇士九

觀世音 千手 右弥勒二丈 後行者遺像が安坐は是當一の因基

あり其外親善堂講堂僧舎四十一區吉水院實城院と俱り

後醍醐帝の御宮へ大塔の址と本堂の西小礎石あり兼曆二年

十一月金峯山の塔供養のの釋きりんくり又藏王権現に定朝調

進せ柏大殿の上小啖合と大座より落ると威表記小とあり

又貞和元年正月十日御後より所泰武藏より所直志ある所小帝へ天

川の奥賀多名のを承落るをひりくをこころを焼拂くとく皇后御

相言交の御所小火くうけし後小式入尺の金を右金剛力士の二階

の内北野天神社七十二間の廻廊二十八所あり小藏王堂一肘小々

諸堂とせし成就とせしやけり

威徳天神社 本堂の右 北野天神満宮とくはすは天慶四年八月

一日日藏上人金峯山の岩窟あり威徳大政天の臨み小あひなり

神勅小まごひく菅神の清任所小至と様くの神語小蒙り我名

と唱へて厚く信せしはつとさうり権護とて示現ありて上人と

金峯山小塚で當社公造立威徳天神宮と編めたり

釋せ小んくとり千跡地藏尊の慈心修那の化あり天神社の信小

あり又稻荷社粒又大黒天の社あり四本の極へ藏王堂乃すあり

ありて大塔宮とてせし舞樂が奏しひたり所とて

四本のこころ小跳鞠の興かありいせく



菅王

菅王

田六

上川

市上

六二二



吉野山

六田飯貝より

大塚小藤に至る

新拾巻

久しき

川波

みよ

六田

淀の

六月雨

義詮

上方門下  
うらぶらぶ  
くわくわ  
うらぶらぶ  
うらぶらぶ  
あさる

下川

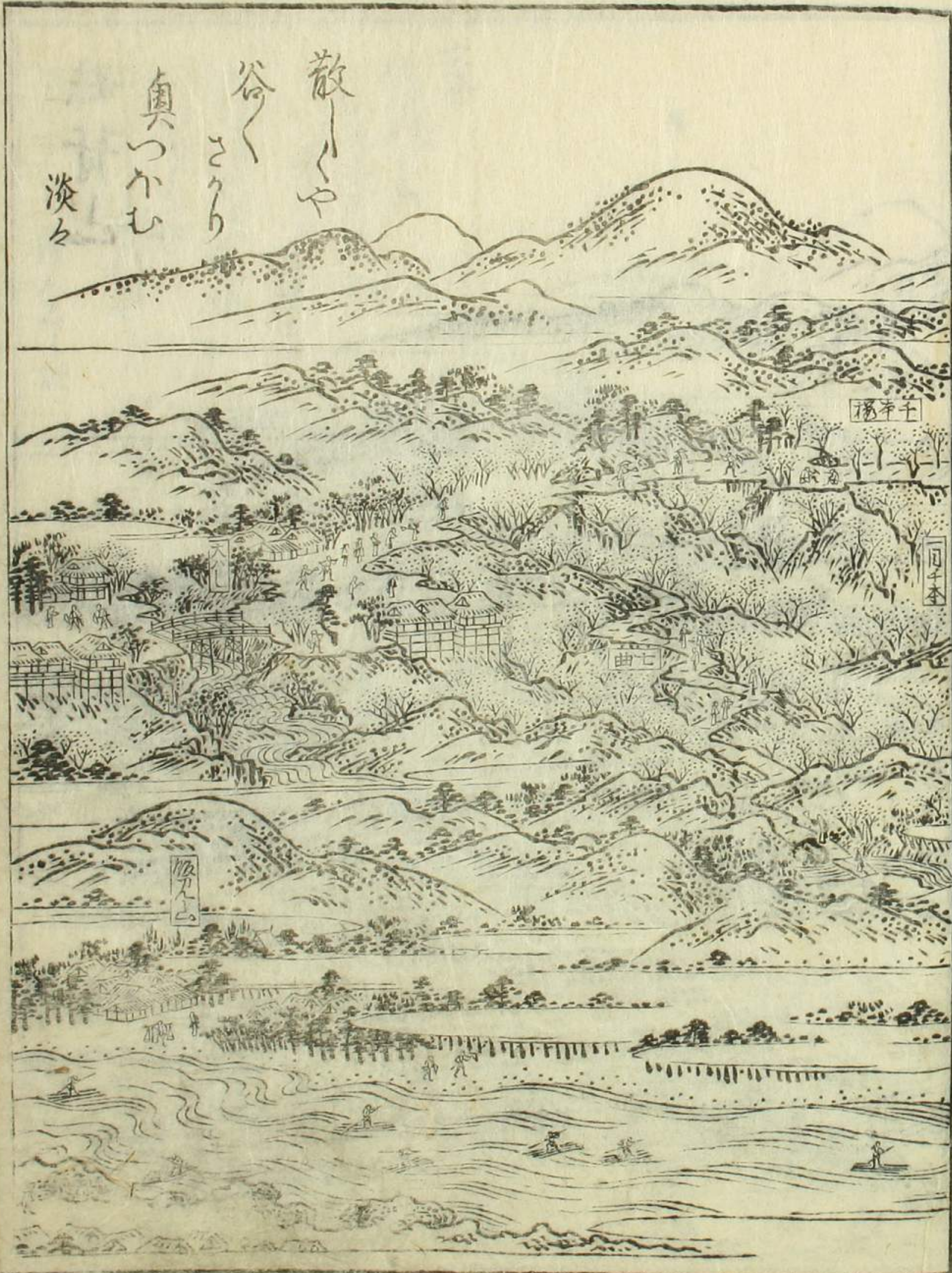
市下

村

上川

高城

町田



散々や  
 谷々  
 真つかむ  
 淡々

千本橋

同千本

曲七

橋九

六三十三



千本橋  
 日本花  
 あ〜と

續千載

〜の心

峯飛入て

り房の

つ〜と小

町橋

花の

志〜と

中宮

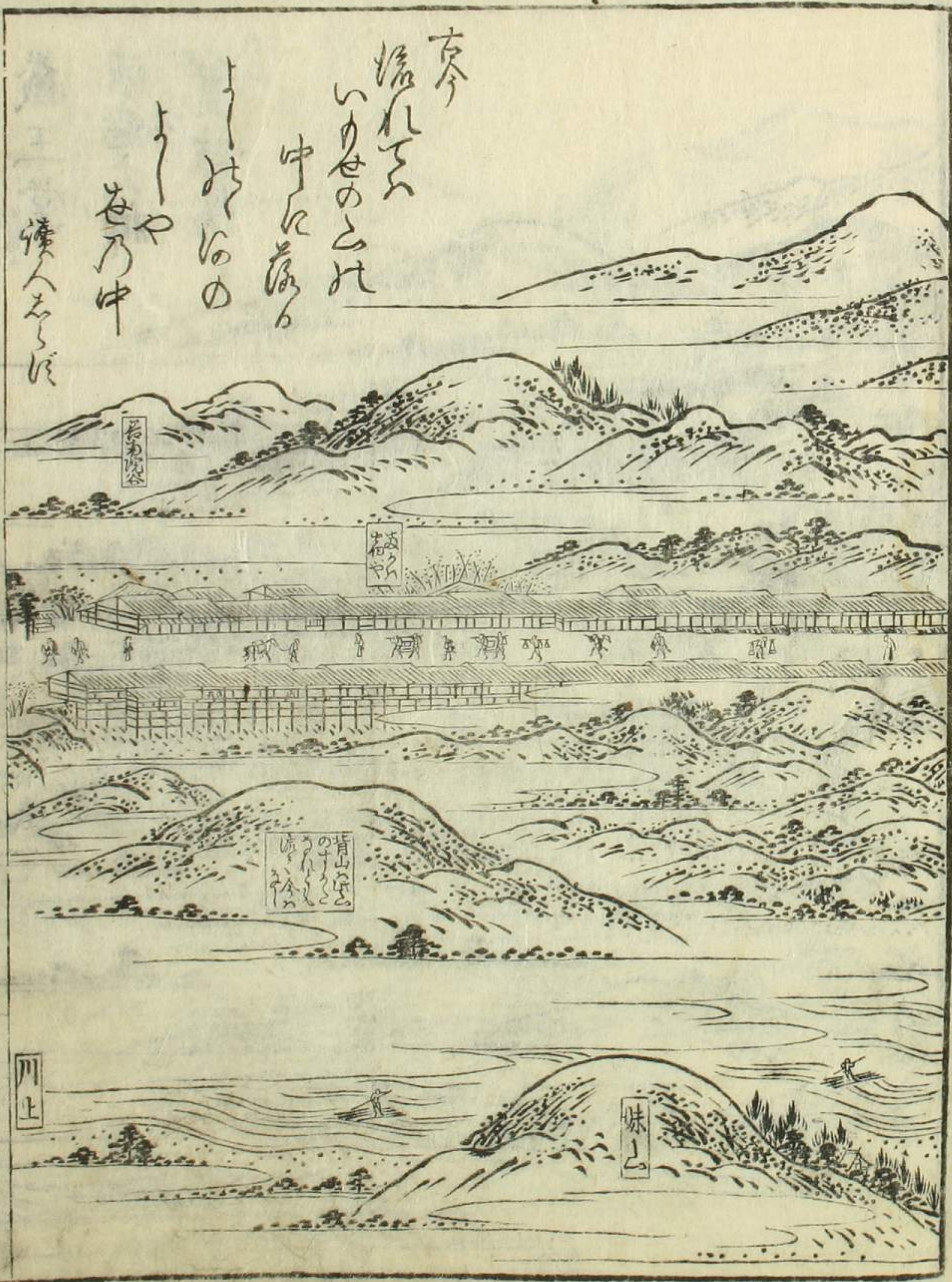
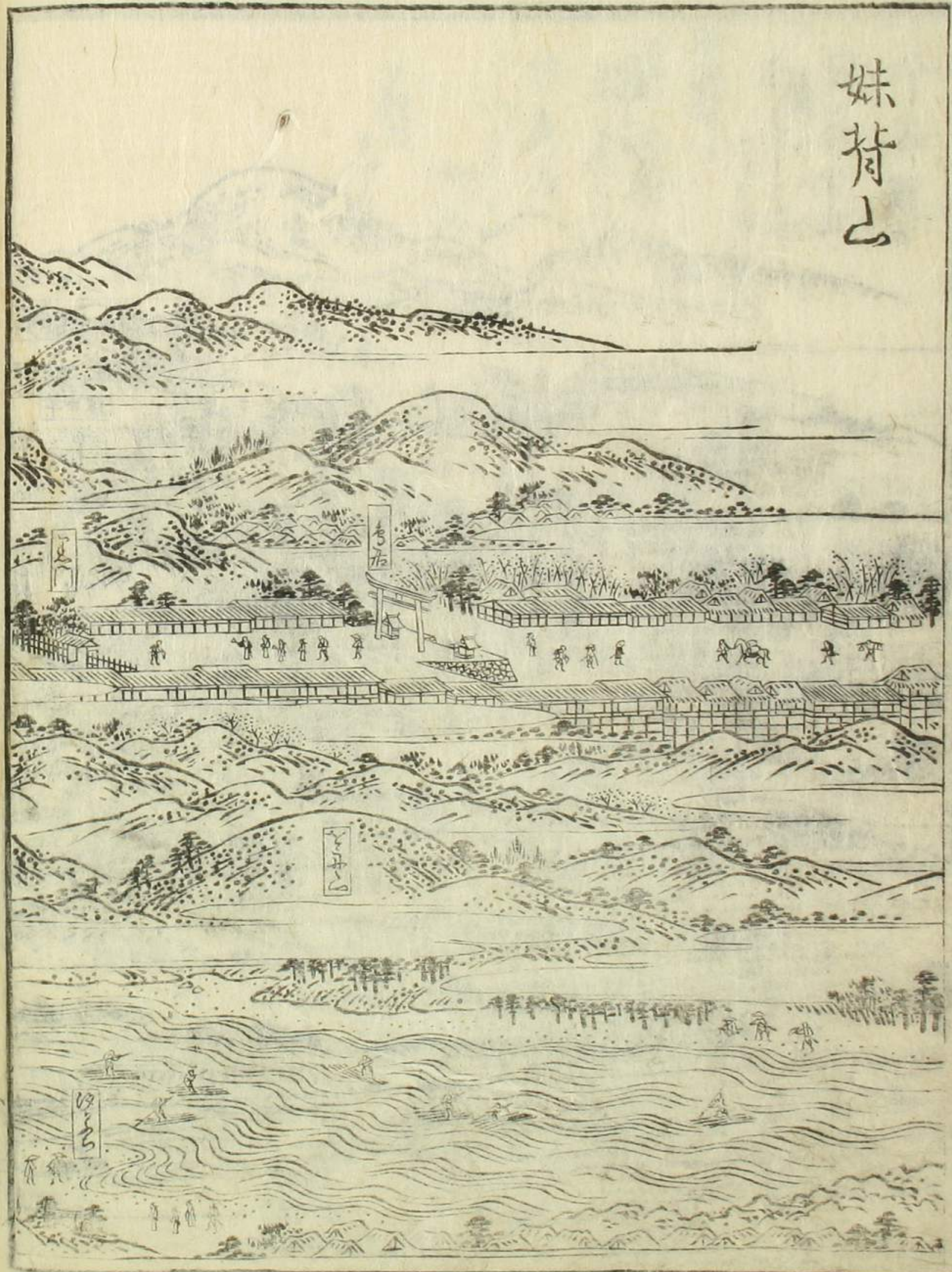
町

茶師

四手社

川下

妹背山



京  
遠れん  
いせのこね  
中ね  
よ  
よ  
巻乃中  
磯人

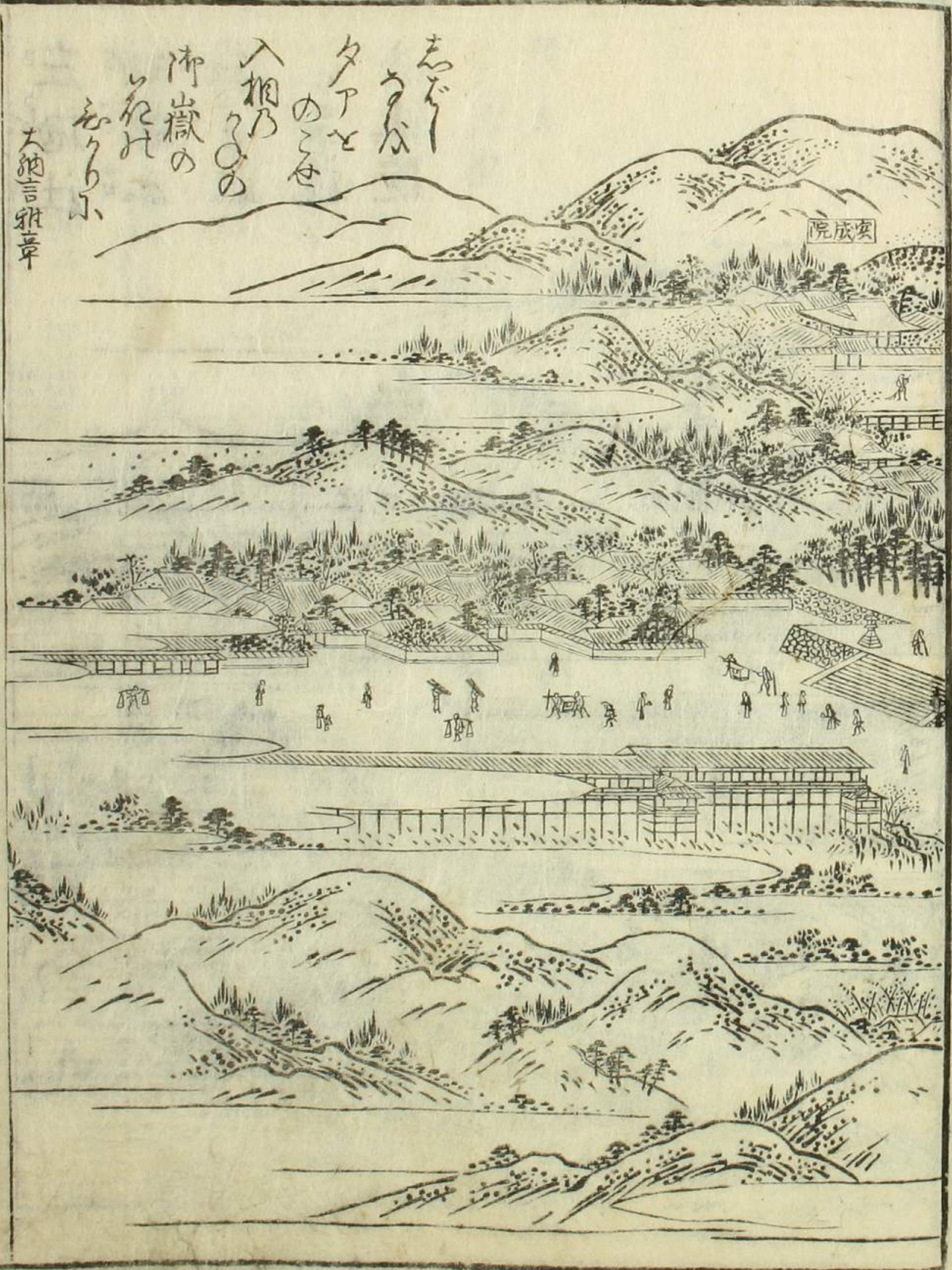
川上

妹背山

六ノ五十四



志乃  
 うん  
 タアと  
 のこせ  
 入相乃  
 のの  
 所嶽の  
 花れ  
 毛くろふ  
 大納言雜草

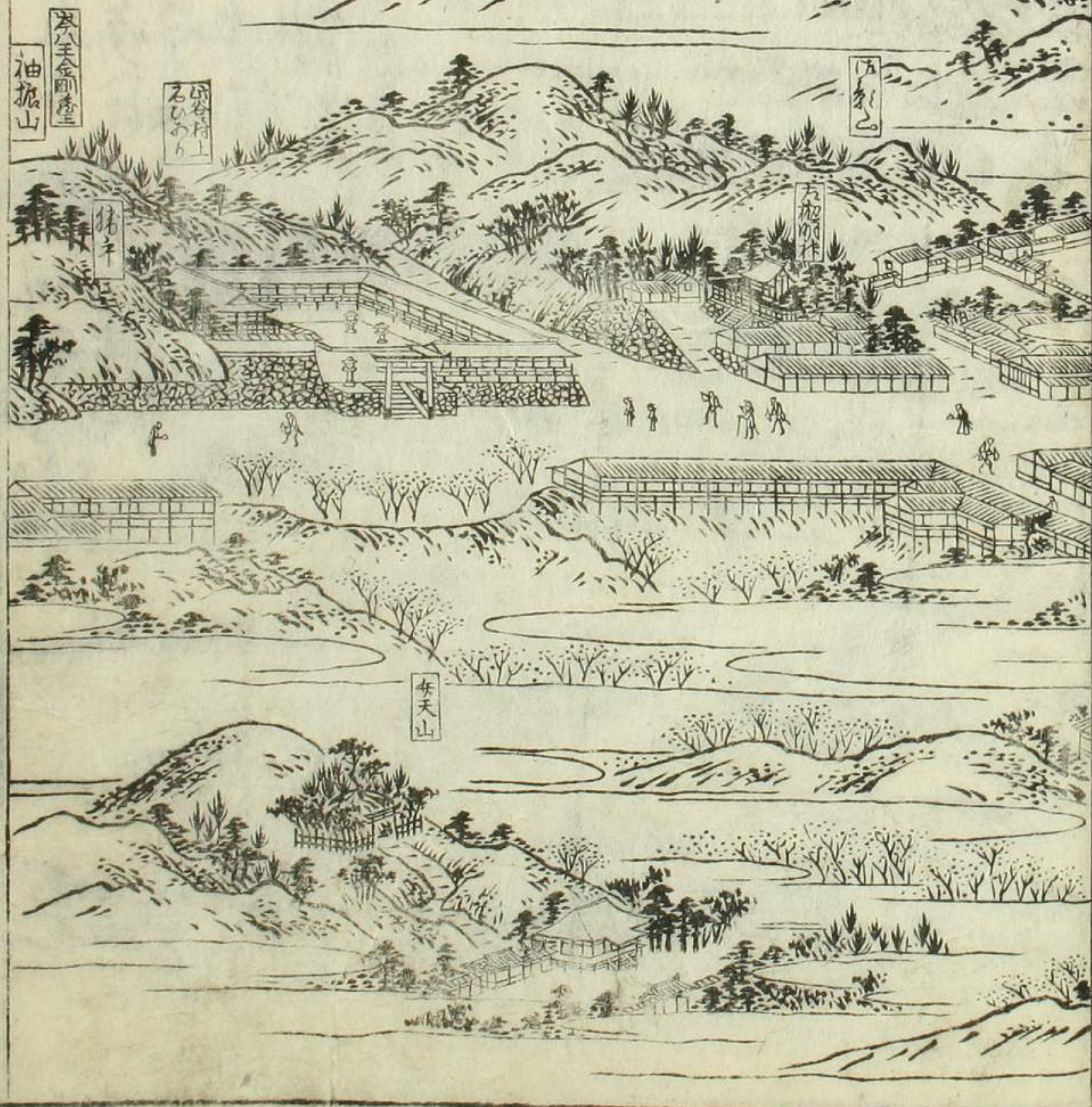


藏王堂  
 威徳天神  
 實城院



倭千載  
 大津風  
 雲吹  
 乙女子  
 神の  
 秋の夜は月

国友



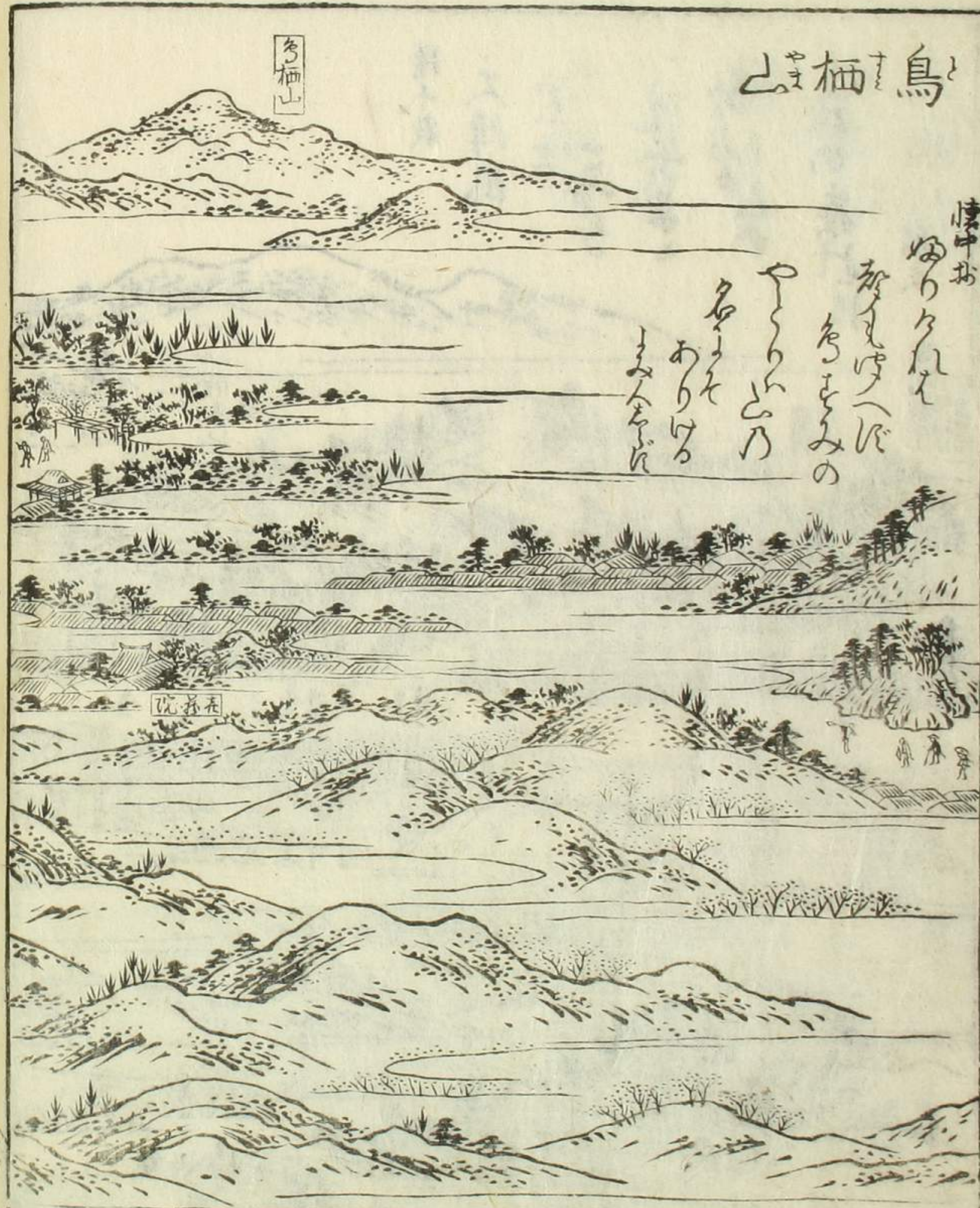
左廂社  
 神振心  
 播磨社  
 三宝院  
 吉水院



竹林院

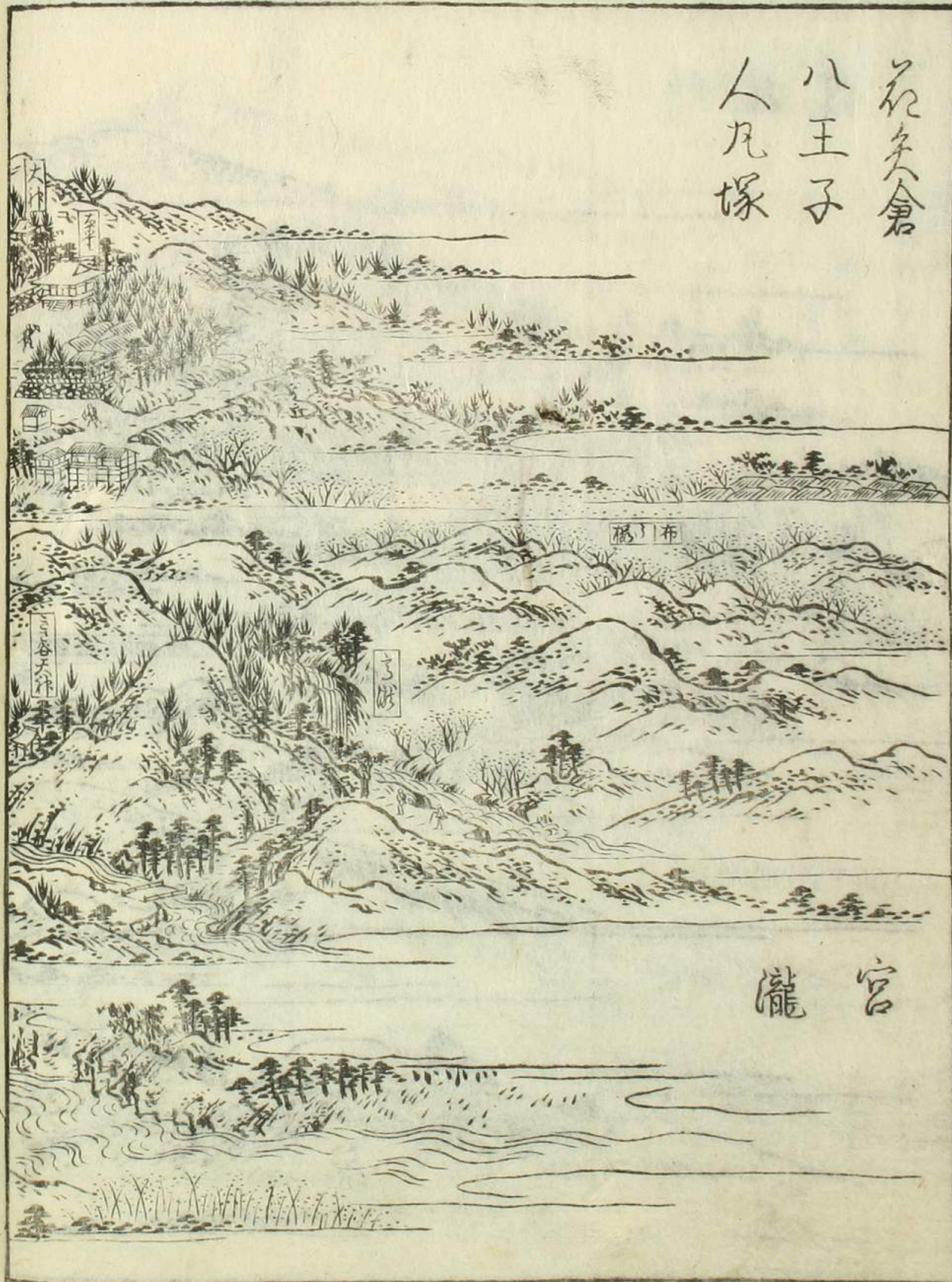


鳥栖山



懐中帖  
ゆりくたえ  
あまのついで  
あまのついで  
あまのついで  
あまのついで  
あまのついで  
あまのついで

竹林院





谷花

峰ノ佛

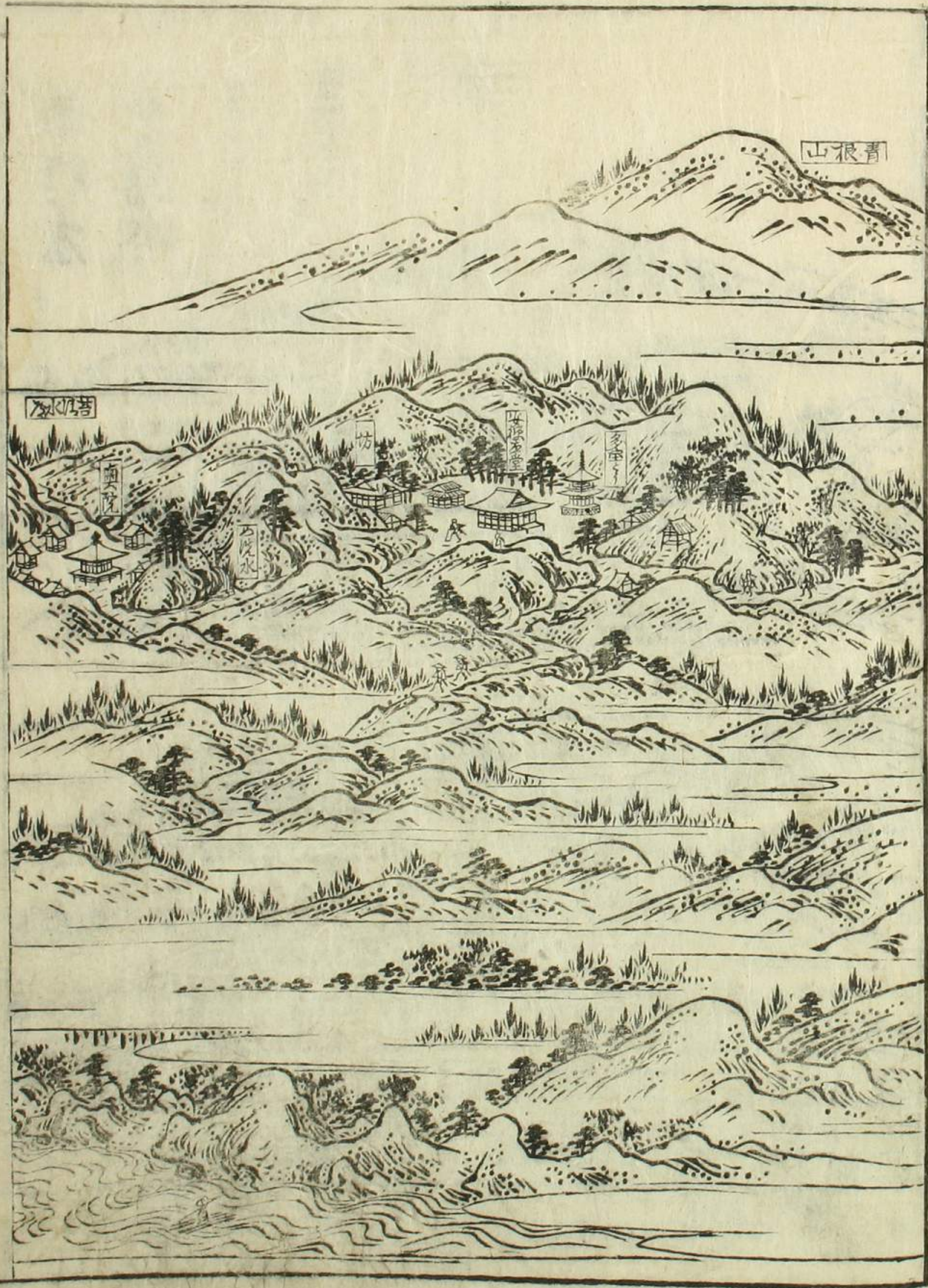
金谷八景

子守社



菜摘川

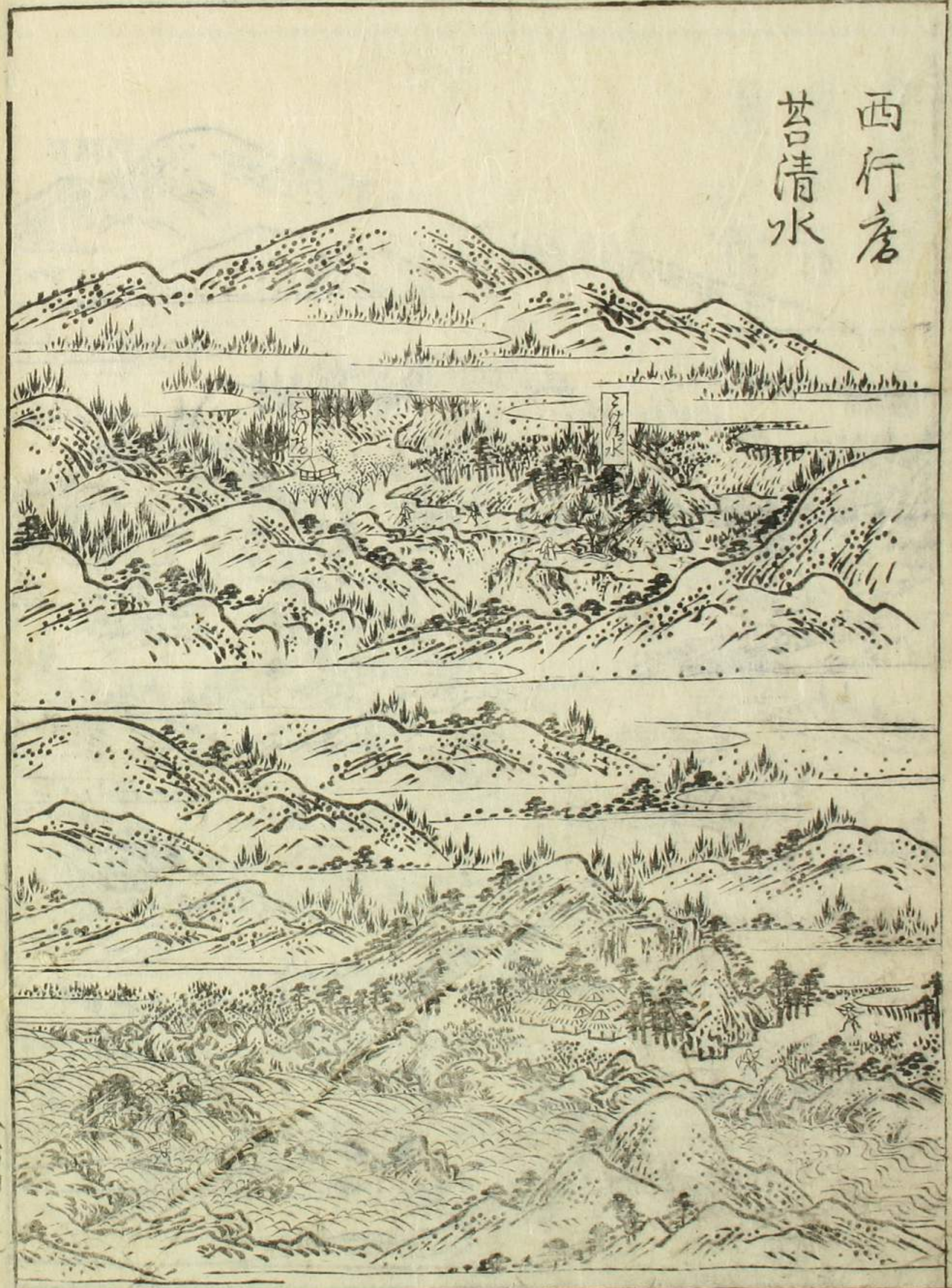
川下



金精大明神社  
 安禪寺  
 奥之院



西行彦  
苔清水



山家集

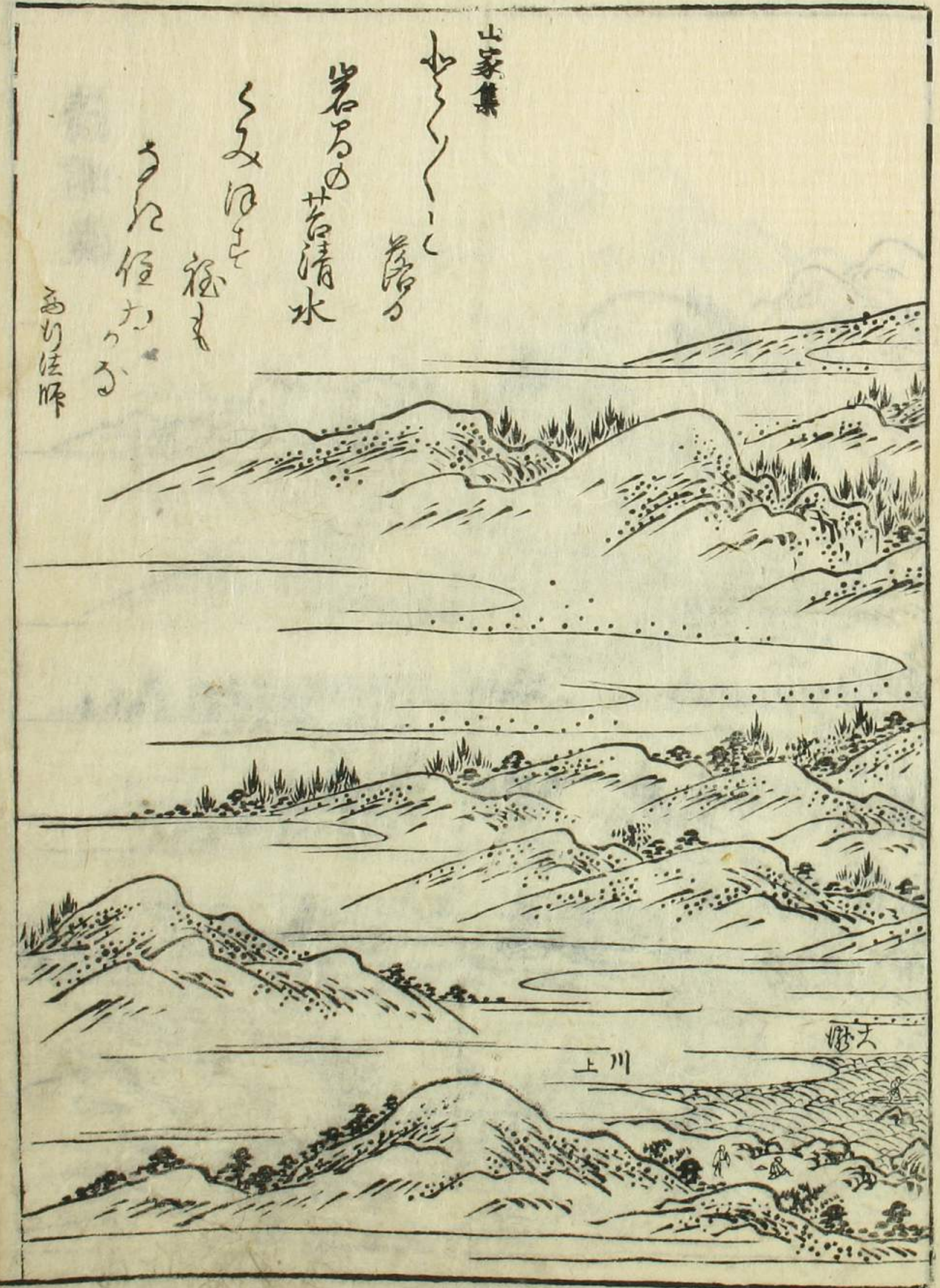
少々々々々々

岩乃の  
苔清水

くまほさ  
福も

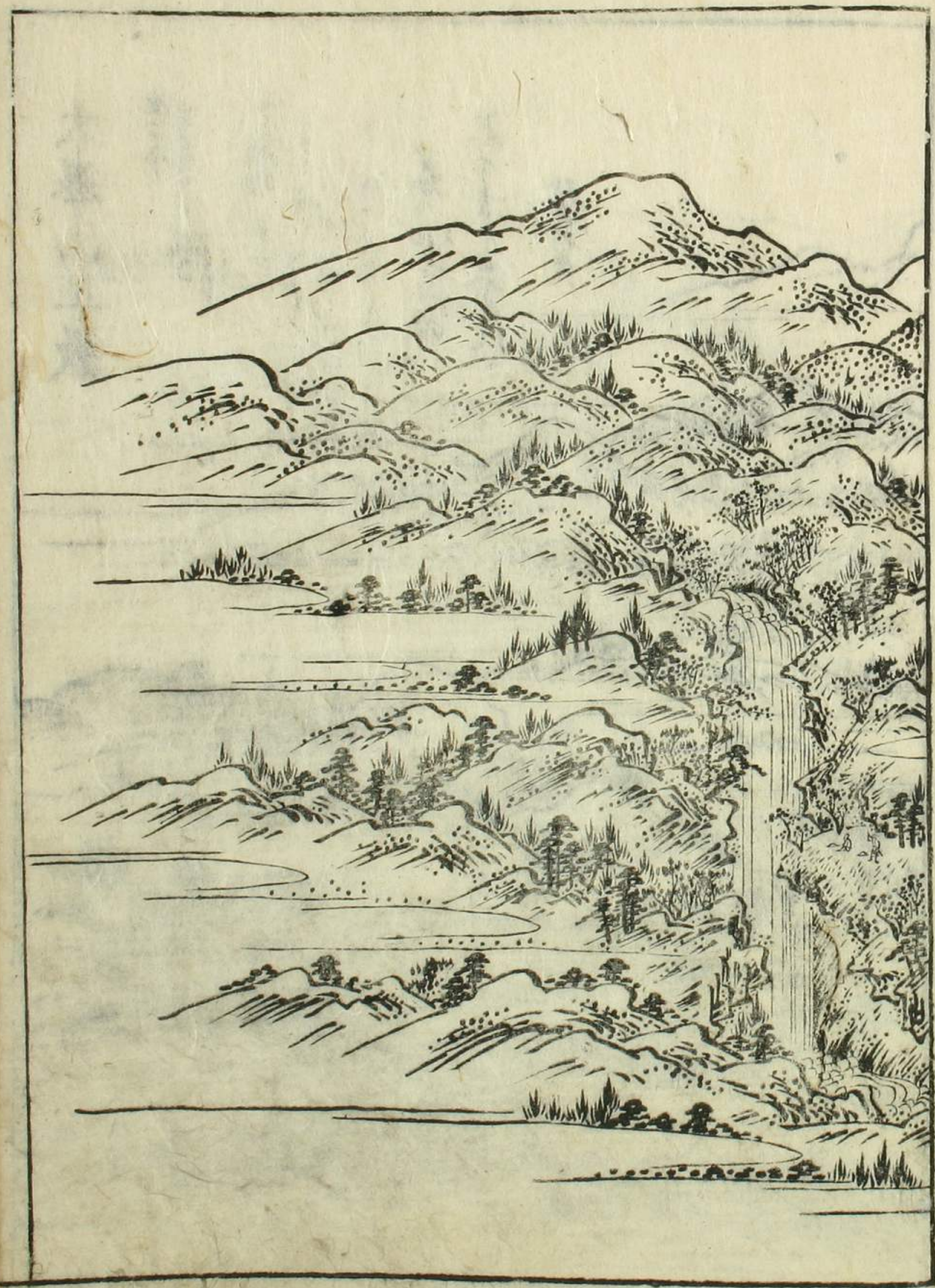
さらば  
恒わら

あり法師



大

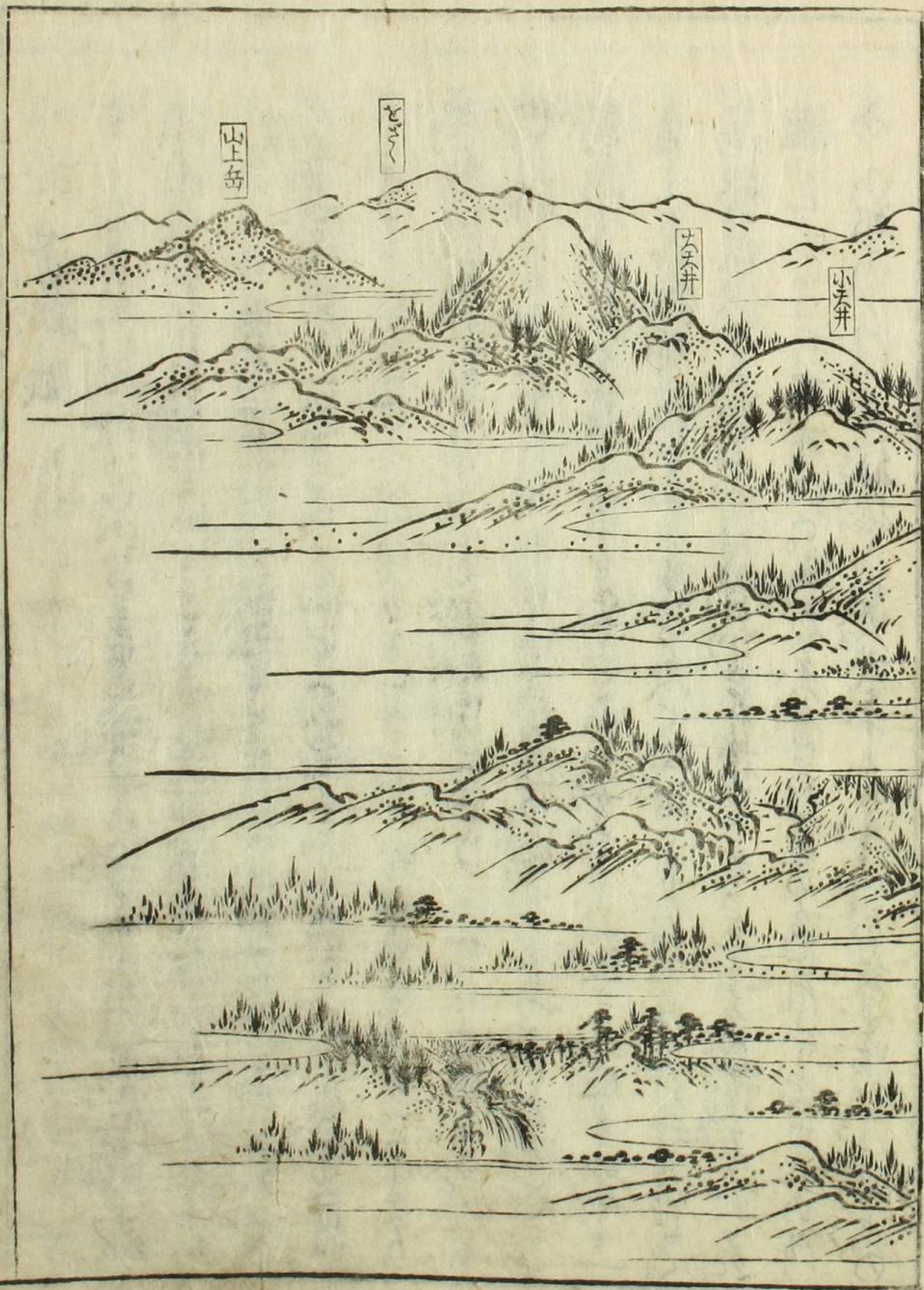
上川



清明瀧







大峯山上嶽

續古今  
大峯のくまの  
くま

七座の

くまの川乃

くまつくし

くまの代の

くまのくまの

信の意

芳那賦

よ〜聖心沛若神といひの皇居の地うらやまあり。川里炭嶽高根。尾上。この井。花園と詠と。とく〜二十一代の奇技二百七十余首。根那の集。お倍歌詩速俳諧のそとひ。佐川田在六があされく。貞室老人のこれあ〜や〜。おぞふ中〜いとほぶ〜ん。さ〜はとほ〜の若那〜。おほい〜ち〜みの能信の奇〜り〜り〜。芳那川のまを〜。意鎮和尚のた〜ろり〜舟のよ栖〜り。川を巴々灘〜り〜つ〜れ〜。紀の和を〜ふ落〜。〜大室〜り〜つ〜。那智の那智〜ろり〜。蔵王堂と〜や〜ろり〜小安堂〜。一郡と八郷と。上ろ〜り〜。飯田〜り〜。下ろ〜り〜。入〜。田〜り〜のほ〜。妹背心〜。高取の城〜。む〜。む〜。この橋。田〜。花。櫻田の谷。さ〜。さ〜。嶽。岡。尾。乃。花。瀧。さ〜。さ〜。井。橋。布。引。の。橋。花。久。倉。花。籠。の。名。嵐。〜。電。の。所。宇。小。都。小。門。〜。と。神。振。〜。天。武。帝。〜。丹。祚。の。録。と。結。む。清。万。原。の。

天台國攝人の舟ふく〜。後醍醐帝。吉水院と皇居り定む。義経と山院や〜。秀吉と山院や〜。賀々名々〜。要害乃。沛所如意輪と山院と築く。厨子の戸ひ〜。南帝勅作の詩公。〜。あ〜。過。去。帳。の。奥。と。榎。止。行。〜。朝。の。奇。と。〜。判。官。の。鎧。〜。毎。度。〜。口。口。〜。の。〜。痛。腹。の。所。〜。と。忠。信。〜。腹。乃。地。心。勝。の。宝。藏。〜。孫。が。孫。の。装。束。と。納。り。子。守。の。あ。殿。の。奇。伝。定。家。此。真。蹟。〜。炎。上。の。後。村。那。橋。本。の。宮。金。情。の。明。神。カ。乞。の。不。動。心。を。地。藏。〜。水。徳。を。を。り。〜。橋。本。の。宮。金。情。の。明。神。カ。乞。の。不。動。心。を。地。藏。〜。え。〜。の。沛。教。堂。〜。と。た。供。ま。の。鉢。〜。た。入。屋。さ。橋。本。の。當。〜。の。先。達。也。大。瀧。宮。瀧。あ。の。の。遊。〜。遊。〜。蟬。が。瀧。清。明。が。瀧。茶。本。は。〜。川。〜。の。落。〜。外。象。の。橋。神。子。の。名。磐。の。尾。の。鏡。龍。〜。の。岩。龜。石。玉。石。大。板。及。人。丸。塚。〜。葉。の。名。井。澄。魚。の。松。の。び。ろ。乃。小。那。〜。後。山。坂。琴。堂。琵琶。〜。根。が。嶺。釋。迦。が。嶽。七。十。二。ろ。ひ。〜。さ。十。の。窟。〜。これ。名。順。逆。二。の。通。路。〜。ろ。〜。一。〜。春。の。頭。巾。〜。の。貝。火。お。塗。物。





延尉源義経公の愛新  
 舞神楽の傍の神おいて  
 法樂の翁を奏し衆徒  
 のころを節し義経を  
 從十二騎とあそびいかに  
 又と利どして勝ん全人  
 ころい六韜文伐の篇れ  
 中入ぞ  
 奥義ともしつこ  
 とのれ

實城寺

藏王堂の乾の又の金輪さしといへ建武二年より

後醍醐天皇宮居小倉とらると北朝と南朝とあつた三年號也

兩朝より出さるる天皇勅し新系和の集とえつたを御ひ

又御ひつゝ茶入十二かごと御座り或は廿二世小倉金輪さしといへ

漆器といひつゝ勅作せし物と金輪さしといひつゝ茶湯

ありしなりと云南朝四世十六年の留皇居の地は其時乃皇

居の地と云と其後あり殿屋は繁盛なり常の清社あり

事ある時ややりの事なきを詠めし

かゞふさびしつゝとまきしれ若孫のちけり雨のそ後醍醐天皇

横笛一管銘七 執笙二管一國軸九 羊皮鼓一面今小倉にあり

南朝興國二年北条曆 新帝後村 若孫と帝都ととては行宮殿

閣とく月卿と交微あり昇進途目殆断絶せんといは於是

二月下旬源親房常陸小田城小居し職亦抄二巻と作し若孫

献しなる百官諸位職掌の格が如く末代小至し帝都の龜鑑と

いひはく親房卿博識宏文あり今東國小在く文藻一冊も

不從して頼りしと著するの只九巻のおしり所ありとある

吉水院藏王堂のよりの町 當院は後醍醐帝の御宮あり建武

元年二月の遺券呈文あり又正平弘和元中明德の年間賜入

所の繪巻小及び新智筒井順慶等の願文あり拵けしものも創る

役行者と上修りの時姑息の居室は其後醍醐の聖齋を修し

くに蹤あしあとのゆめあり加之源平兵乱あり源義経を慶しと小

誓し軍議を謀るると平小及び其居席今に破壊せざるを

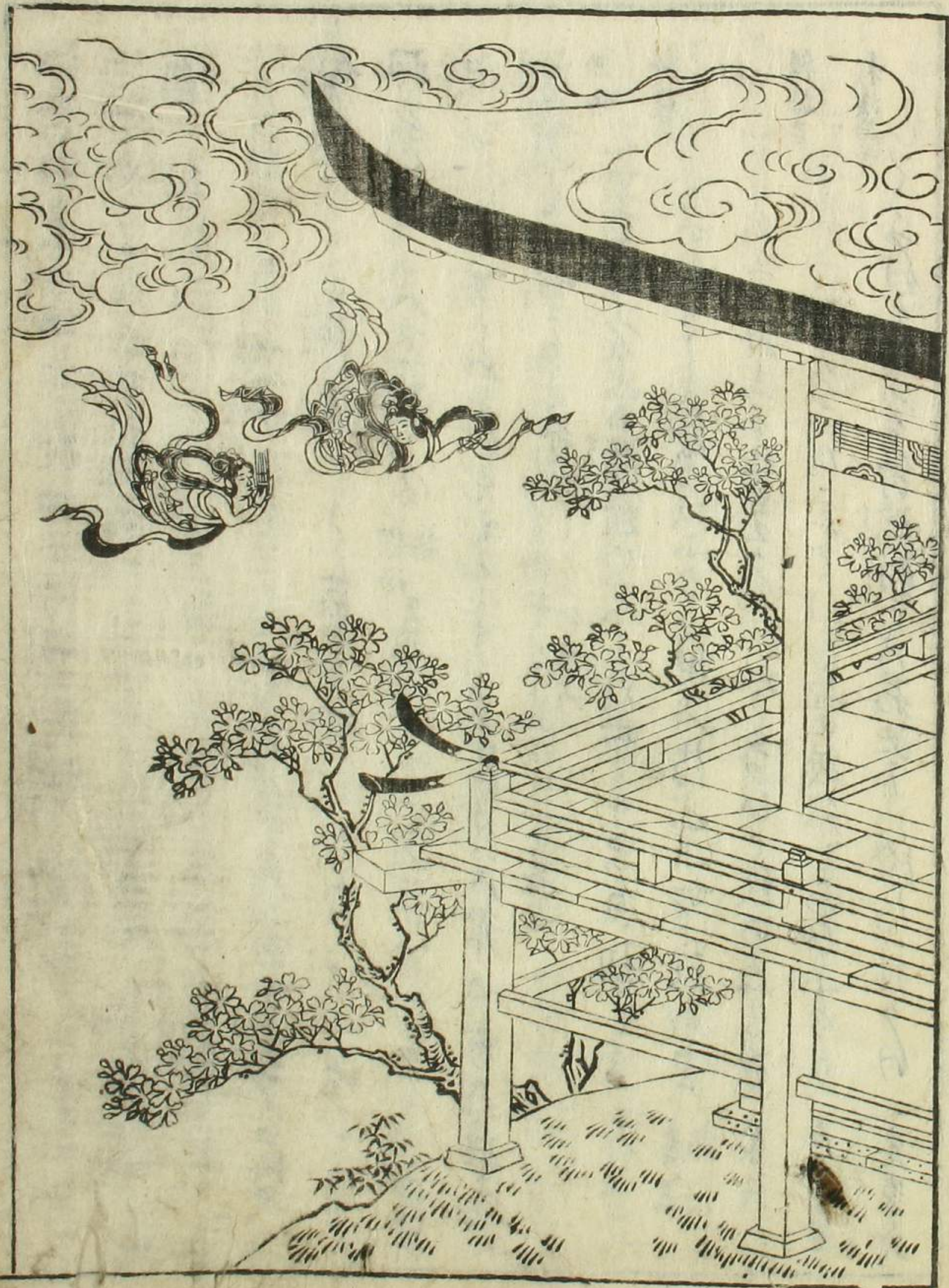
よの約の足蹤武藏坊が力釘今小地の形を遺に付昔文治元年

源義経大物浦より風波の騒がのうしといふ事あり夜に入りて

そく小けち小入る若孫法師等義経を討んとせしといふ又けち

出中院谷小源とく小慈徒等とく小求りたりを依る





降乃<sup>くだり</sup>天<sup>あま</sup>皇<sup>みまろ</sup>者<sup>もの</sup>の<sup>の</sup>宮<sup>みや</sup>を  
 環<sup>めぐ</sup>ら<sup>せ</sup>し<sup>て</sup>久<sup>ひさ</sup>し<sup>く</sup>人<sup>ひと</sup>衆<sup>しゆ</sup>向<sup>むか</sup>ひ  
 曲<sup>まが</sup>り<sup>て</sup>お<sup>の</sup>れ<sup>は</sup>ひ<sup>たり</sup>  
 それより神<sup>かみ</sup>居<sup>い</sup>と<sup>い</sup>ふ







櫻ま記

後醍醐帝の陵にやうり小極が千本極を植ひし

極この極の下のまなりのの神のあはれを

討死の神殿をかたふたけすく如意編ちのこを

小楠正乃同正時同將監和田新發意同今多才新去清同紀六九清乃息

二人新田四布子息二人西川子息岡地良山

各留半座無花臺 待我廟浮同行人

願以此功德平等施一切同發菩提心往生安樂國

正修此修のまなりのの蓮のうらみ

願以此功德平等施一切同發菩提心往生安樂國

正修此修のまなりのの蓮のうらみ

とらんことつげりし戸ひらひらり今小あり戸扉寶庫小封してあり

泊船集

後醍醐帝のみまなりのを

奇きより軍書小懸し

支考

病十山  
多し  
ねお木

